

第一号議案

2019年度事業実績

(特) 岡山県国際団体協議会 (COINN)

“2019年度はCOINN30周年記念イベント(2022年度)”
の準備スタート年です。

(COINN 設立趣旨抜粋)

- (1) 一地方といえども私たちは世界的な視野で世界的問題に対して立ち向かわなければ、将来の世代は存在しない。
- (2) 地域で開発したフィールドワークの経験(国際救援、技術支援、自立支援、人材の育成等)を、広く社会に周知し共有する。
- (3) わたしたちは相互に連携して強力な組織を構築し、お互いの団体の足腰を強化して協働する。
- (4) 当協議会は岡山県における国際活動NGOの連携ネットワークのハブ(仲介者)となる。
- (5) 互いの個性や違いを尊重しながら、繋がり、助け合う地球市民社会をさらに成熟させる。
- (6) 各NGO団体の組織基盤の強化を図る。
- (7) 世界の人々と「顔の見える関係」を構築し協力し合う真の地球市民社会を構築する。

(定款抜粋)

1. 当会の目的(定款第3条)

本法人は、国際NGO及びNPO間の連携を深め、関係機関及び県民との協力のもとに、国際理解・国際交流・国際体験・国際協力・国際支援・国際貢献活動等(以下「国際活動」という。)の推進を図り、もって国際社会に貢献することを目的とする。

2. 活動の種類(定款第4条)

国際協力の活動及び当会の目的の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動を行う。

3. 事業内容(定款第5条)

第1項: 会員間の連携・協働を促進する事業

1. 主要事業

①COINNのユネスコNGO認証を目指した国際的な組織体制の見直し⇒継続

別紙-1-1参照: 「今後のCOINNの活動目標」

別紙-1-2参照: 「COINNこれからの活動方針について(反省)」

別紙-1-3参照: 「COINNがユネスコNGO認証により成長のためのボトルネックをクリア」

②COINN基本構想の検討⇒継続

COINNが国際機関であるユネスコカテゴリーIIを取得するには、COINNのユネスコNGO認証を受けた後に行う予定です。これの基本構想の考えを再度審議継続中。

別紙－2 参照：「国際活動団体 in OKAYAMA 再結集について－COINN in JAPAN 基本構想－」

③ユネスコ国際機関誘致活動について

ユネスコを誘致することが岡山県内のこれからの戦略として非常に重要であると考えています。特に、南アジア、東南アジアからの青年たちを囲い込むことがこれから非常に重要になってきます。このために、これまで彼らに重要な国際協力を行ってきました。それは、南アジア、東南アジアにユネスコの国際機関が設置した日本で言うところの公民館（現地では地域学習センター：CLC：Community learning Center）が各国に数千か所あり、その地域の青年たちが、地域産業を興したい希望があります。それらにポイントを置いて国際貢献をしてきています。すでに、ネパールでは、当 COINN の団体とネパール各地の CLC（2500か所）との総会を行うようになっており、青年たちの育成するために岡山に招聘（企業への就職）する状況になっています。現在までのその活動を設立経過としてまとめています。また、岡山県内等の関係者への説明はユネスコ国際機関誘致活動実績をご覧ください。

別冊－1 参照：「アジア青年未来プロジェクト」設立経過

別紙－3 参照：ユネスコ国際機関誘致活動実績について

2. 定例事業

①奉還町ニューウエストウインド（夏祭り）への参加 2019年7月27日（土）

主催：岡山県国際団体協議会、石井学区連合町内会、奉還町商店街振興組合、協同組合西奉還町商店会、石井地区社会福祉協議会、石井学区内各団体、岡山県国際団体協議会

会計：(財)岡山県国際交流協会

別紙－4 参照：「第24回スーパーノスタルジック夏祭り」

②岡山市・ESD推進協議会委員会への参加

岡山ESD推進協議会委員として参加。岡山市の提案に対して意見を申し上げています。基本的な事業内容は次のとおりで下記の一部に参加しています。

- ・ESD市民フォーラム・交流会事業
- ・関係団体と連携した持続可能な社会とは何かを考える学習会の開催
- ・ESDコーディネーター研修の実施
- ・ESD学生インターンシップ（海外派遣の予算あり）
- ・地域コミュニティ・公民館でのESD推進
- ・ESD岡山アワードへの申請
- ・岡山ESDプロジェクトへの助成申請
- ・2019年ESD教師教育世界会議への参加（主催：岡山大学、共催：岡山市、RC E岡山、ユネスコ・アジア文化センター、アジア太平洋国際理解教育センター、アジア太平洋ESD研究所）

③国際会議・国際協力：

別冊－2 参照：「第8回アジア青年未来プロジェクト－青年の地域定住促進（CLC 地域おこし）」ネパール代表 CLC 地区モデル・スタッフ育成事業の実施

（内容）

今回、自分たちの地域を開発するにはどのようにしたらいいかの方法を、岡山から専門家を現地に派遣し、基本的なことを伝授しました。その後、ネパール青年に意見を募集し、その優秀者を岡山に迎える段取り

が十分できていました。ところが、新型コロナウイルスの関係で、招聘者が、現地、ネパール空港を出発する2時間前に、こちらから搭乗をストップさせました。招聘者2名にとっては、誠に残念で、悲しいできごとだということは、主催者側として悔やんでも悔やみきれない思いでした。勿論、今回、10日間の万全の受入体制を準備しましたが残念ながら岡山に到着できなかった2名については、いつの日か、必ず招聘する予定です。

第2項：各種国際活動の推進を図る事業

①ESD活動団体交流会

岡山市が開催するESD市民フォーラム・交流会事業等の事業を会員に紹介して参加を促しました。

②岡山ESDフォーラム（2019年11月24日(日) 会場 岡山大学

直接、COINNの事務局長が参加しました。また、会員の方にも広報し参加されました。

③ユネスコ/日本ESD賞賞金による若者向け助成事業への参加（重要）

岡山青年を海外に派遣する制度で、参加を会員や地域おこし協力隊員組織に情報を流しました。希望者もいましたが日程調整がつかせませんでした。

④岡山市の「優良事例の顕彰」応募協力

a) 岡山ESDアワード申請（グローバル賞分野）

これまでの状況からCOINNは分野として難しいので会員に促しました。但し、これは2019年度が最終年でした。

⑤岡山市のESDウイーク支援事業への参加促進

a) 「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2019」への参加

日時：2019年12月20日（金）13:00-18:15

12月21日（土）9:30-13:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

内容：政府、地方自治体、各種団体のSDGsを各地域で達成していくための人づくりーESD for 2030を見据えて

出席者：COINN事務局（岡山市助成）

⑥SDGsネットワーク事業提案

別紙ー5参照：SDGsオリピック in Okayama, 2022 (COINN30周年事業提案(案)) SDGsネットワーク岡山への提案

実施状況⇒これまで、岡山の関係団体（岡山大学等）に調整しています。2020年度は、異文化理解事業を2019年度に行ったので、そのミニ版として「ミニSDGsオリピック in Okayama, 2020」を行いたいと考えています。

⑦異文化理解事業

内容：国際的な人々の生活定住の為の困難と問題の明確化ー岡山県における外国人の異文化適応訓練プログラムの実施

参加国：ベトナム、ネパール、インドネシア、フィリピン、トルコ、ブラジル、アメリカ、フランス、ニュージーランド、韓国、イタリア、オーストラリア、中国、マレーシア、スウェーデン、スイス、オーストリア、イギリスカナダ、ジャマイカ、コロンビア、バングラデシュ、日本

会議：準備会6回、実行委員会3回、異文化理解事業本番1回

参加者：20か国以上の国々の方々が300名以上参加し盛大な事業を行うことが

できました。実際には、準備会、実行委員会、本番とで延べ500人以上参加

別冊—3参照「2019年度国際的な人々の生活定住向上推進事業—国際的な人々の生活定住の為の困難と問題の明確化—」報告書

第3項：国際活動に関する内外の情報収集と提供事業

①ニュースレターの発行

当初目的⇒会員団体の事業時に取材スタッフ（大学生インターンシップ）を派遣年3回程度

結果⇒異文化理解事業で在留外国人のインタビューを20人以上行って最終的には、各会員団体まで面会できませんでした。

②岡山発国際貢献推進協議会主催行事への参加

総会・活動事例発表会 2019年7月1日（月）14:00～15:30に参加

テーマ：演題「一番大切なものは、何か？—野球を通じた国際貢献—」

講師 おかやま山陽高校教諭・硬式野球部監督 堤 尚彦 氏

③JICA関西主催

開催イベントについて広報を実施。主として、NPO等が海外で行う国際協力活動の資金的な情報をJICAが伝えている。

第4項：会員間の情報交換、情報発信等の支援事業（部会長と調整予定）

①COINN 加入メリット増強策

別紙—6参照：COINN 会員団体向けの出張ボランティア 継続

②組織変更対応に関する協議

a) 交流部会、国内支援部会の開催については、異文化理解事業を大々的に行ったので、その準備会（6回）、実行委員会（3回）で岡山在住の20か国以上の外国人と話し合いを行った。メインは、如何にして岡山人と共生するかという問題でした。

部会長：トルコ文化センター

（「異文化理解事業」に併せる）

b) 海外支援部会の開催

（国際協力・国際会議等の実行委員会に併せる。）

2019年度は〔第8回アジア青年未来プロジェクト—青年の地域定住促進（CLC 地域おこし）〕ネパール代表 CLC 地区モデル・スタッフ育成事業を行ったのでその実行委員会に併せた。

部会長：アジア農村協力ネットワーク岡山

d) 旧会員への復帰協議

何が会員にメリットになるかを協議することが基本ですが、現状では、ユネスコ・パリ本部にNGO認証を申請しているのでその結果を待って、旧会員に対応する。

第5項：会員と他分野の民間団体、並びに行政機関、国際機関、企業・経済団体、教育機関等との連携を促進する事業

①ユネスコ・パリ本部との関係の構築

目標：COINNのユネスコNGO認定を取得する

経過：2018年12月17日（月）～19日（水）ユネスコ・パリ本部訪問申請
2019年1月28日（月）申請受理 審査に4か月から1年が必要の回答
2020年3月19日（木）途中経過報告 最終段階しかしコロナ禍で審査ストップ
状況：新型コロナウイルスの関係で2018年12月末に申請したユネスコのNGO認証審査が大幅に遅延している。2020年の2月までに結論が出る予定でありましたが、ユネスコ本部があるフランスが感染症対策で都市閉鎖が起これば、2020年3月以降停滞となっている。その内容は、別紙をご覧ください。
別紙—7参照：「ユネスコ・パリ本部からの連絡文書」

②タイ政府（ユネスコ担当部署）、ユネスコ・バンコック事務所、日本学術会議バンコック事務所、ドゥアン・プラティープ財団訪問

期 間：2019年9月8日（日）～9月12日（木）

訪問者：COINN 事務局長 橋本徹決

COINN パートナーシップ・コーディネータ 後谷和美

別紙—8参照：「関係国政府、関係団体とのコミュニケーションの継続報告書—バンコック訪問（政府・ユネスコ・バンコック、財団、日本学術会議タイ事務所—

③岡山大学主催事業への参加

・「ESD教師教育世界大会」（2019年11月22日（金）～25日（月）

参加者 海外70カ国120名参加 会場 岡山大学

ユネスコ・パリ本部前ESD担当部長：グスタボ・ロペス氏と面会岡山大学学長を紹介

④ノートルダム清心女子大学と共催事業

名 称：「ブルガリア OKAYAMA 交流支援特別公演」

日 時：2019年11月9日（土）13:30～16:15

参加者：岡山市職員、大学生、NPO関係者200名

別紙—9参照：「ブルガリア OKAYAMA 交流支援特別講演」

⑤岡山県等との協働事業提案

a) 国際貢献月間に向けた2019年10月資料の会員への広報実施

b) 国際活動団体働・ネットワーク・フォーラム—

目的：「時代の変革に相応した組織づくり」をどうするか⇒継続

別紙—10参照：国際活動団体・ネットワーク・フォーラム（案）

⑥一般財団法人岡山県国際交流協会（OPIEF）主催事業への参加

a) 令和元年度国際貢献NGOフェアへの出展への個別参加

特に、NGOフェアは岡山県国際交流協会と共催

実施時期：2020年1月9日（木）～3月25日（水）

参加団体：NPO法人岡山県国際団体協議会（COINN）、ダフェプロジェクト、日中友好協会岡山支部、日本ミャンマー医療人材育成支援協会日本ボーイスカウト岡山連盟、岡山青年国際交流会、岡山ユネスコ協会、NPO 法人国際協力研究所、NPO法人岡山日本語センター、岡山エスペラント会、岡山発国際貢献推進協議会

別紙—11参照：「国際貢献NGOフェア」

b) 令和元年度国際理解学習プラン講師派遣事業への個別参加

各会員団体へ広報、各会員団体個別にOPIEFへ申請

- c) 令和元年度国際理解・協力活動等助成金事業への個別参加
各会員団体へ広報、各会員団体個別に OPIEF へ申請
- d) 令和元年度国際貢献・協力セミナーの共催の個別参加
講演内容：竹沢うるま講演会（世界 140 か国以上を旅する）
日 時：2019 年 10 月 5 日（土）13:30～15:30
開催場所：岡山国際交流センター 2 階国際会議場
- e) 令和元年度 COINN 活動支援助成事業申請（10 万円リソグラフ）
各会員向けコピーサービスのためのリソグラフを 10 年以上前から設置。その維持のための助成金 10 万円を OPIEF から頂いている。
別紙—12 参照：「特定非営利活動法人岡山県国際団体協議会活動支援助成事業」
- f) 令和元年度岡山国際交流センター防火対策協議会参加
開催日時：2019 年 8 月 5 日（月）14:00～
場 所：岡山国際交流センター 6 F 交流プラザ
議 題：岡山国際交流センター自衛消防隊について、日常の火災予防の担当者等について、防災訓練について、その他（避難器具：緩降機、消火器（粉末 ABC 消火器の使用方法について、避難経路について）
参 加 者：岡山県華僑歌人総会、NPO 法人岡山県国際団体協議会、（一社）岡山県国際経済交流協会、防災センター（株）ホーワ、岡山県県民生活部国際課海外渡航班（パスポートセンター）、岡山市北区役所市民保険年金課（パスポート市民サービスコーナー）、（一般）岡山県国際交流協会
防災訓練：2019 年 8 月 7 日（水）9:00～
2019 年 12 月 26 日（木）9:00～

⑦岡山NPOセンター関係事業

- a) SDGs ネットワークおかやまに参加
2 月毎に開催：各岡山市内 NPO が参加して SDGs を推進することについて協議
- b) NPO 法人岡山 NPO センター通常総会参加
日時：2019 年 6 月 8 日（土）19:00～20:00
場所：アンソレイユ

⑧助成財団への申請

- a) 申請組織立上げ（申請作成の報償制度、COINN 内部コンサルタント制度）
継続
- b) 検討先：継続
JICA・新「草の根協力支援型技術協力」
トヨタ財団、日本財団、日本政府（外務省、文部科学省）
申請内容例：日本政府（外務省、文部科学省）
CLC を拠点とした地域住民（青年）主体の「“人・組織・地域”づくり」と「ライフ・システム支援プログラム」の構築（※ CLC=Community Learning Center）
申請実績（トヨタ財団：外国人在の受け入れと日本社会）
2019 年 11 月 30 日申請⇒2020 年 3 月上旬 不採択通知 再度 2020 年度は、橋本財団へ内容を少し変えて申請予定（在留外国人によるプラットフォームづくり）。
別紙—13 参照：「外国人在の受け入れと日本社会」企画書

c) 外務省インターンシップへの申請

継続

d) 「世界の人びとのための J I C A 基金」への申請

C L C (コミュニティー・学習・センター：日本の公民館に相当) の「人づくり」「組織づくり」「地域づくり」の一事業提案 (上記 b の申請内容例と同じ) 継続

⑨ E S D 学会への加入と事業への参加

継続

第 6 項：研修・講演会等の開催事業

① 将来の外国人招聘事業への対応研修

2019 年 4 月 1 日に入国管理法が改正され、在留外国人が、延長して日本に滞在し、状況によって長期に滞在するようになる。このため、これまで述べたように在留外国人との共生問題の解決もあり、この経過途中で、外国人の職業紹介の希望も出てくることから、職場に講習資格者が必要なことから厚生労働省所管の研修を事務局が受講することにした。また、民間ハローワークの必要性 (対外国人向け) からその準備を進めている。現実には、南アジアの在日中の青年から職業紹介の依頼があった。

a) 職業紹介責任者講習会の受講 2019 年 7 月 17 日 場所：大阪府教育会館 2 階

参加者：COINN 事務局長 橋本徹決 試験合格

b) 将来の民間ハローワーク (厚生労働省の許可が必要) の取得準備 (最終的には、総会で再度了承を必要となる)

行政書士の資格申請⇒準備中 自動的に資格を得られるものが COINN のメンバーに存在する。

② N P O センター開催の研修会への参加

継続

③ 外務省・J I C A 共同説明会への参加

継続

④ 岡山大学副学長 横井篤文 氏 講演への参加

継続

第 7 項：その他、協議会の目的達成のために必要な事業

① 会員向けサービスの提供

a) 会議室の調整：交流プラザ (9 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0)

岡山県、岡山県国際交流協会、NPO 法人岡山県国際団体協議会 (COINN) と 3 者間で使用細則締結

県民、市民への利用促進、会員へ利用広報、

b) 会員私書箱のメールボックスの利用調整 (郵便物も配付含む)

c) 各団体の情報提供 (COINN ホームページ掲載)

d) 事務局の運営 (会員入会登録管理事務、理事会、部会、総会、法務局届出、受付文書受理業務)

2019 年度は、「岡山県多文化支援センター」が加入

② COINN 活動収益事業の実施

a) 八塔寺国際交流ヴィラ、八塔寺山荘の受付事務

岡山県観光課からの外国人旅行者宿泊者数調査の回答

b) 再オープン国際交流ヴィラへの協力中

- ・吹屋：大阪からの若者が吹屋へ移住し、ヴィラの運営を3年前に高梁市が許可し運営を行っている。
- ・牛窓：牛窓のオリーブ畑の中にある宿泊施設、本来の所有者となり運営している。
- ・白石：地域おこし協力隊員が夫婦で運営を行っている。

4. 管理運営業務

(1) 会議等の開催

①総会

定期総会（2019年6月1日（土））

②理事会開催

5月17日（金）、8月22日（木）、12月16日（月）

③COINN 理事連絡会メール

3ヶ月に1回程度

④COINN 会員交流会

忘年会12月28日（土） 外国人2名、日本人7名

(2) ヴィラ委託事務（八塔寺国際交流ヴィラ、八塔寺山荘：宿泊者の世界からの受付業務）

2019年4月1日～2020年3月31日

別紙-14参照：2019年度 八塔寺国際交流ヴィラ国別宿泊者数一覧表

(3) 入会受付審査

岡山県多文化支援センター

(4) 会員登録事務

法務局への手続き

(5) 会員メール情報提供事務

(6) イベント実施結果の情報授受とホームページ掲載

(7) メールボックス設置とメールの配布（1階→6階）

(8) 会員管理事務（会員名簿作成事務）

(9) 会員間の情報伝達事務

(10) 関係機関通知文等処理

岡山県、岡山市、岡山発国際貢献推進協議会、岡山県国際交流協会、その他調査団体のアンケート調査

（懸案事項）特に、岡山市からNPO法に基づく様式に従って作成してもらいたい希望が出ている。さらに、過去の届け出事務が未了もあるので早急に行う。

(11) 岡山国際交流センター管理者への協力

①センター建物利用者連絡会議

②消防訓練

(12) アルバイトの採用（広報）

2019年度実績

岡山大学学生：中島安野、山地康太、大濱大瑛

ノートルダム清心女子大学：工藤智恵

その他：大倉美恵（元公民館館長）

(13) その他（起案・決裁）

収支計算書(総括表)

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:円)

科 目	一般会計						計
		OPIEF委託事業	ユネスコ勝致事業	異文化理解事業	国際交流ガイ 委託事業	国際会議・国際 協力(アジア青 年未来プロジェ クト)事業	
(収入の部)							
1 会費収入	175,000						175,000
前年度繰越	35,000						35,000
2 寄付金収入			2,600,000				2,600,000
3 助成金収入		100,000		68,000		430,000	598,000
4 委託金収入					479,356		479,356
前年度繰越					62,980		62,980
5 負担金収入							0
6 立替収入	1,250,000						1,250,000
7 戻し	261,955						261,955
8 受取利息	8						8
9 他会計より繰入	0	60,721	0	1,318,341	0	856,277	2,235,339
当期収入合計	1,721,963	160,721	2,600,000	1,386,341	542,336	1,286,277	7,697,638
前期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0	0
収入の部合計	1,721,963	160,721	2,600,000	1,386,341	542,336	1,286,277	7,697,638
(支出の部)							
1 事業費	133,251	160,721	794,863	1,386,341	127,185	1,286,277	3,888,638
2 管理費	709,661	0	0	0	0	0	709,661
3 備品費	226,800	0	0	0	0	0	226,800
4 その他	37,200	0	0	0	0	0	37,200
5 返還金	600,000	0	0	0	0	0	600,000
6 他会計へ繰出	15,051	0	1,805,137	0	415,151	0	2,235,339
当期支出合計	1,721,963	160,721	2,600,000	1,386,341	542,336	1,286,277	7,697,638
当期収支差額	0	0	0	0	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0	0

収支計算書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位：円)

(1) 一般会計

科 目	金	額	
I 収入の部			
総会成立過半数21名以上		175,000	
2019年度			
既存会員会費 5,000×15	75,000		
新規加入会費 5,000×1	5,000		
入会金 5,000×1	5,000		
10,000×9	90,000		
2. 寄付金収入	0	0	
3. 借入金		1,250,000	
借入金	1,250,000		
4. 戻し金		261,955	
戻し金	261,955		
その他			
5. 受取利息		8	
受取利息	8		
6. 他会計より繰入		0	
他会計より繰入	0		
当期収入合計 (A)		1,686,963	
前期繰越収支差額	35,000	35,000	
収入合計 (B)			1,721,963
II 支出の部			
1. 事業費		133,251	
会員間連携協働事業	0		
国際活動推進事業	62,301		
情報収集提供事業	2,410		
情報交換発信支援事業	0		
関係機関連携事業	0		
研修事業	68,540		
2. 管理費		709,661	
事務所費	341,595		
会議費	40,184		
旅費交通費	14,546		
通信運搬費	181,443		
消耗品費	41,343		
新聞図書費	53,371		
租税公課	2,800		
諸会費	21,000		
雑費	13,379		
3. 備品費		226,800	
備品費	226,800		
4. その他		637,200	
借入返金	600,000		
その他	37,200		
5. 他会計へ繰出		15,051	
他会計へ繰出	15,051		
当期支出合計 (C)			1,721,963
当期収支差額 (A) - (C)			-35,000
次期繰越収支差額 (B) - (C)			0

(2) 特別会計 (OPIEF委託事業)

(単位:円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1. 委託金収入	100,000	100,000	
2. 他会計より繰入	60,721	60,721	
当期収入合計 (A)		160,721	
前期繰越収支差額		0	
収入合計 (B)			160,721
II 支出の部			
1. 事業費		160,721	
消耗品費	71,939		
リース料	88,128		
修繕費	0		
備品	0		
振込手数料	654		
当期支出合計 (C)			160,721
当期収支差額 (A) - (C)			0
次期繰越収支差額 (B) - (C)			0

(3) 特別会計 (ユネスコ誘致)

(単位:円)

科 目	金	額	
I 収入の部 (委託金)			
1. 寄付		2,600,000	
個人から	2,600,000		
2. 他会計より繰入			
当期収入合計 (A)		2,600,000	
前期繰越収支差額			2,600,000
収入合計 (B)			
II 支出の部			
1. 事業費		794,863	
渡航費	134,830		
旅行傷害保険	13,800		
人件費	443,750		
滞在費	89,896		
近地交通費	20,802		
通信運搬費	400		
消耗品費	20,949		
通訳・翻訳代	16,436		
広報代	12,957		
手荷物預かり	1,000		
振込手数料	3,576		
食糧費	9,734		
雑費	26,733		
2. 他会計へ繰出	1,805,137	1,805,137	
当期支出合計 (C)			2,600,000
当期収支差額 (A) - (C)			0
次期繰越収支差額 (B) - (C)			0

(4) 特別会計 (異文化理解事業)

(単位:円)

科 目	金	額	
I 収入の部 (委託金)			
1. 助成金		68,000	
岡山市人権推進課			
岡山発国際貢献推進協議会			
岡山市ESDE推進課	68,000		
2. 他会計より繰入		1,318,341	
	1,318,341		
当期収入合計 (A)		1,386,341	
前期繰越収支差額			
収入合計 (B)			1,386,341
II 支出の部			
1. 事業費		1,386,341	
謝礼	222,400		
通訳費	175,142		
報告書作成費	162,960		
作業賃金	273,500		
会場費	201,825		
近地交通費	30,740		
チラシ作成費	25,000		
印刷製本料金	83,490		
通信運搬費	28,796		
消耗品費	96,181		
振込手数料	4,950		
雑費	13,357		
返還金 (岡山市ESD推進課)	68,000		
2. 他会計へ繰出	0	0	
当期支出合計 (C)			1,386,341
当期収支差額 (A) - (C)			0
次期繰越収支差額 (B) - (C)			0

(5) 特別会計（国際交流ヴィラ委託事業）

（単位：円）

科 目	金	額
I 収入の部		
1. 委託金収入		479,356
(1) 白石ヴィラ(白石・島づくり委員会)		
年間基礎委託料	0	
受付手数料	19,050	
(2) 八塔寺ヴィラ(備前市役所)		
受付手数料	367,475	
(3) 八塔寺山荘(備前市役所)		
受付手数料(繰越)	92,831	
当期収入合計(A)		479,356
前期繰越収支差額		62,980
収入合計(B)		542,336
II 支出の部		
1. 事業費		127,185
(1) 人件費		
報酬	117,893	
(2) 事務費		
消耗品費	5,412	
ホームページ管理費	2,200	
ヴィラ視察旅費	1,680	
2. 他会計へ繰出	415,151	415,151
当期支出合計(C)		542,336
当期収支差額(A) - (C)		-62,980
次期繰越収支差額(B) - (C)		0

(6)特別会計(2019年度国際会議・国際協力「第8回アジア青年未来プロジェクト」事業)

(単位:円)

	金 額	
I 収入の部		
1. 助成金収入		430,000
岡山県 (2018年度未納分)	250,000	
倉敷市 (2018年度未納分)	180,000	
2. 他会計より繰入		856,277
他会計より繰入	856,277	
当期収入合計 (A)		1,286,277
前期繰越収支差額		0
収入合計 (B)		1,286,277
II 支出の部		
1. 事業費		1,286,277
渡航費	395,772	
滞在費	92,772	
近地交通費	157,833	
会場費	19,200	
車両借上げ	30,720	
通訳費・翻訳費	166,584	
通信運搬費 (輸送代: 電話代事務局統合)	45,273	
保険加入費	29,420	
消耗品費	35,269	
謝礼	138,560	
報告書作成費	93,000	
日当	25,920	
食糧費	36,916	
参加賞	11,520	
賞金	5,760	
振込手数料	1,758	
2. 他会計へ繰出		0
他会計へ繰出	0	
当期支出合計 (C)		1,286,277
当期収支差額 (A) - (C)		0
次期繰越収支差額 (B) - (C)		0

貸借対照表
2020年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	0	
普通預金 中国銀行奉還町支店①	0	
普通預金 中国銀行奉還町支店②	0	
普通預金 三井住友銀行	12	
郵便振替 岡山伊福町郵便局	0	
未収入金－1	1,230,000	
未収入金－2		
流動資産合計		1,230,012
資産合計		1,230,012
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	0	
借入金		
国際会議借入 (個人)		
個人 (2017年度残450,000円-450,000円)	0	
個人 (2018年度残1,670,000円-150,000円)	1,520,000	
個人 (2019年度残1,250,000円)	1,250,000	
流動負債合計		2,770,000
負債合計		2,770,000
III 正味財産の部		
正味財産		-1,539,988
正味財産合計		-1,539,988
負債および正味財産合計		1,230,012

財産目録
2020年3月31日現在

(単位：円)

科目・適用	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	0		
普通預金 中国銀行奉還町支店①	0		
普通預金 中国銀行奉還町支店②	0		
普通預金 三井住友銀行	12		
郵便振替 岡山伊福町郵便局	0		
現金預金合計	12		
未収入金			
岡山県			
助成金	550,000		
岡山市			
助成金	500,000		
倉敷市			
助成金	180,000		
未収入金合計	1,230,000		
流動資産合計		1,230,012	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			1,230,012
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0		
借入金			
国際会議借入(個人)			
個人(2017年度残450,000円-450,000円)	0		
個人(2018年度残1,670,000円-150,000円)	1,520,000		
個人(2019年度残1,250,000円)	1,250,000		
流動負債合計		2,770,000	
負債合計			2,770,000
正味財産			-1,539,988

前事業年度の役員名簿

(2019年(令和1)年4月1日から2020年(令和2年)年3月31日)

特定非営利活動法人岡山県国際団体協議会

No	役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬	備考
1	理事	青山 勳	[Redacted]	2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
2	理事	岡本 俊則		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
3	理事	谷本 基		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
4	理事	チフチ・アイ テキ		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
5	理事	片山 哲也		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
6	理事	森木 美知子		2019年4月1日～2019年5月31日	無し	2019年6 月1日以 降解任
7	理事	坪井喜久太		2019年5月1日～2020年3月31日	無し	2019年6 月1日以 降解任
8	理事	小林 勉		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
9	理事	有竹 正寿		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
0	理事	間嶋 孝		2019年4月1日～2019年5月31日	無し	2019年6 月1日以 降解任
1	理事	長木 愛		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
2	理事	近藤 英生		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
3	理事	橋本 徹決		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
1	監事	玄古 真祥		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	
2	監事	桔梗 博充		2019年4月1日～2020年3月31日	無し	

今後のCOINNの活動目標

岡山県へのUNESCO国際機関誘致(案)に向けて

UNESCO NGO認証申請

2018年12月 COINNは、UNESCOに認証NGO申請を行った。
申請後4か月～1年で認証可否の通知予定。



関連団体・自治体との連携強化

会員組織、関連団体、地方自治体、中央省庁との連携強化を行う。



広報活動の強化

各種メディアの活用、HP、Facebook等の有効活用、連携交渉等の渉外活動の強化



組織の再編

部会の再編、国別部会、組織団体部会の設置、事務組織の再編

今後のCOINNの活動目標

岡山県へのUNESCO国際機関誘致(案)に向けて

2

01 UNESCO NGO認証



2019年12月末(予定)
までに認証の可否通知

02 広報・渉外 連携強化



- ・プレス発表・SNS活用強化
- ・岡山県、10市町村との連携
- ・関連団体との協働・連携
- ・行政・中央省庁との連携
- ・UNESCOへの活動報告
- ・他の認証NGOとの協働
- ・活動資金・補助金の確保

03 組織の再編



- ・国際機関誘致検討委員会
- ・誘致発起人
- ・誘致を支援する会
- ・誘致実行委員会
- ・事務局組織の再編
- ・国際協力職員
- ・広報担当官

COINN海外部会

アジア各国のCLCの活用



海外人材・資源と
県内企業との橋渡

UNESCO海外地域事務所
との協働プロジェクト

COINN これからの「活動方針」について(反省)

ユネスコNGO認可(予定)を機に岡山に国連機関を誘致し、国際交流・貢献を通して共生社会を実現する

<これまでのCOINN> 設立時の明確な活動方針に則って運営を目指す(別紙:発足時のミッション)

岡山県国際団体協議会(COINN)

UNESCO誘致(2022)までのCOINN内部見直し

COINNのあるべき姿(別紙)

県内・外の国際関係
団体の行事等に参加

理事会(事業計画の作成・協議・実行)

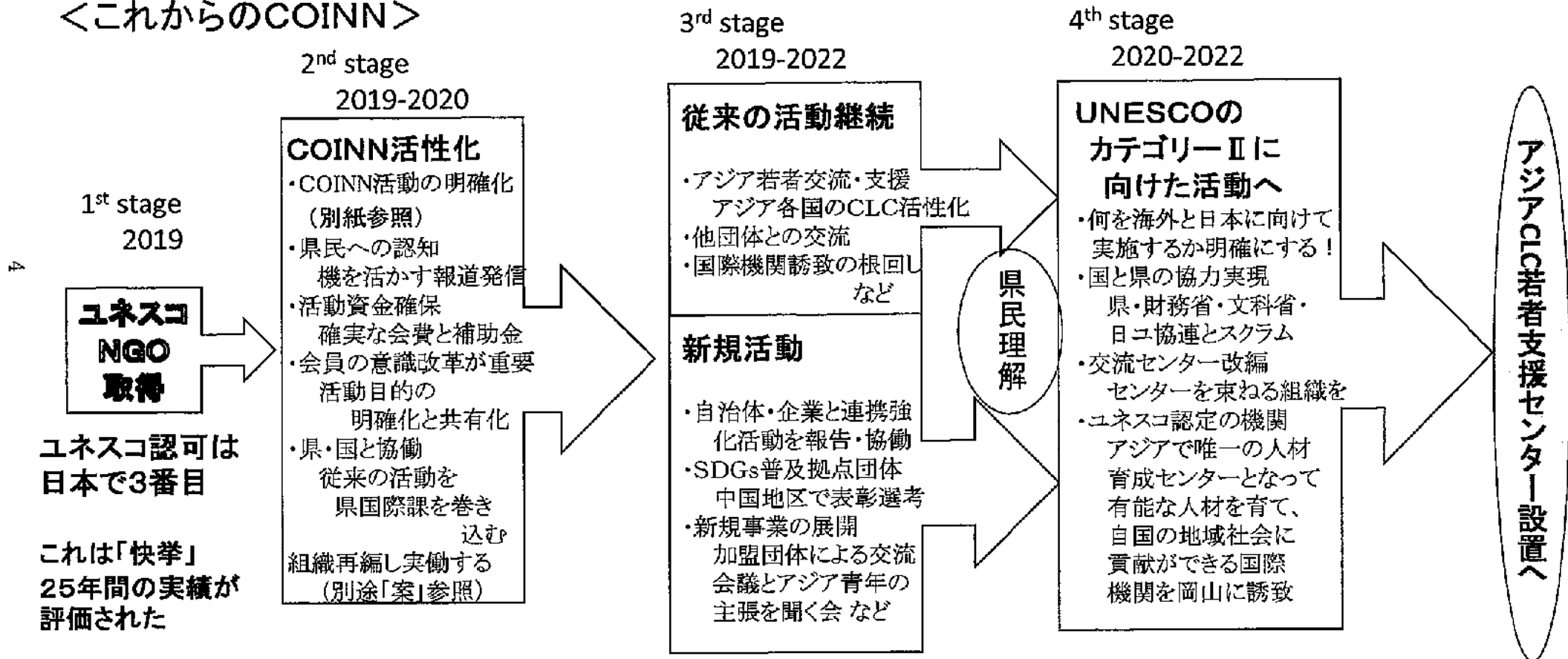
この10年は南アジア、
東南アジアへのアプ
ローチ

これがUNESCO NGO
認可(予定)に! (各
国との強力な絆を生
かす)

45の岡山県内の国際団体が加盟
加入団体の意思を生かしながら岡山の発展のために活動
COINNとして一体化し国際活動を追及(県民への求心力)

COINN これからの「活動方針」について(方向)

〈これからのCOINN〉



COINNがユネスコNGO認証により成長のためのボトルネックをクリア

↓

<p><これまで></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGO間の相互研鑽 ・協働した国際協力 (NGO・各国行政ネットワーク) <p>市民、行政、企業、学校 NGO全てに感謝される COINNになっているか</p>	<p>→</p>	<p><下記課題が解決へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・夢が不明確 ・具体的活動が見えない ・認知度低くブランド力ない ・参加NGOにとってのメリットが見えにくい ・理事会含む実施体制 ・+プラットフォーム力と収益・支援が集まりやすい事業モデルの不足
--	----------	---

戦略骨子(1)

1. 新COINNのポジショニング構築(コンセプト明確化)へのチャレンジ
~全ての関係者に信頼と感謝されるCOINNへ~

メッセージの更新	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、行政、企業、NGO+途上国NGOのプラットフォームとしてのポジショニングの明確化(地域NGOネットワークとしてのOnly Oneを強調(途上国とのつながり))→30周年
「見せ方」の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやパンフレット上での「見せ方」の更新 ・ロゴ、キーキャッチコピーの更新(例: 私たちは、「国際協力・交流」に関心がある全ての人や機関をつなぐ架け橋です)
情報発信機能改善	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金・行政の動き、イベント情報などの会員団体向けメルマガ発信と一般向けメルマガ発信の開始(メルマガ300名)

戦略骨子(2)

2. 採算性ある事業メニュー構築へのチャレンジ
~感謝される事業で収益増加に繋げる~

人材不足対策対応	<ul style="list-style-type: none"> ・企業自社外国人従業員への接対(試行乗組)登録支援機関の研究 ・職業紹介責任者講習への参加 ・関係国(南アジア、東南アジア11カ国)とのMOU(了解書)の締結
グローバル事業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・新組織の下でvillaを活用し海外の方々との多文化共生パッケージでの魅力向上を図り採算率を上げる
地球市民スタディツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・開発途上国への状況視察・帰来性のチェック、体験型スタディツアー(多文化共生) ・国内・県内在住外国人・異文化理解プログラム作成

戦略骨子(3)

3. 目標実現への体制・計画構築へのチャレンジ
~30周年記念イベント(2022年)を最大限有効活用~

2019年度業務事項の確定	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度に達成すべき事業を決定 ・スケジュールと目標指標の確定
組織体制の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコNGO認証後に向けて企業経営者の理事の確保(3名確保)
個人・企業リポーター	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や企業の新組織サポーター制度構築 ・過去の異業種交流会実績の利用
30周年記念イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・30周年記念イベントを「変革」アピール、支援者獲得のターニングポイントにする → 「印象」に残らないと点

30周年イベント

<p><目的></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新生COINN」についてメディア、社会認知向上(岡山発ユニークさ、30年の歩み、プラットフォーム化への決意...) ・30周年宣言(2019年度事前宣言)2022年ユネスコ・カテゴリII認証決意 <p><時期・人数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年月10月ユネスコ総会 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元行政、企業、著名人、海外ネットワーク、青少年、壇上参加 ・<実行委員会組織化>委員長(国際都市岡山を希求する岡山大学学長)
--	--

写真・映像の活用、デジタルプラットフォームの活用、メディア戦略の活用

ビジュアルイメージ(にちらを向いている写真) ※キー写真・メッセージが3パターン転換する OR プラットホームモデルを示す(LANIC型)

私たちの目指すもの	What's New	メルマガ登録
活動内容	イベント情報	サポーターになる
あなかにできること	団体概要	寄付する
報道・ハイライト	報道・ハイライト	参加する・学ぶ
NGOデータベース	NGO相談 やって来ます	地球市民 カレッジ
	世界ユネスコ NGO認定活動	NGO会員 募集中

国際活動団体 in Okayama 再結集について(案)

—COINN in JAPAN 基本構想—

2019年5月17日(金)

Conference of Okayama International NGO Network (COINN)
NPO 法人岡山県国際団体協議会(事務局)

第一：再結集理由(過去～近未来の状況を考える)

1. 「情報」の観点から見る時代の変革と生活技術の向上

- (1) 1990年代までの状況
電話とファックスによる相互通信が主流(時間を要す)
- (2) 1990年代から2020年まで
当初10年間は情報通信のインターネットが主流
SNSの発展(開発途上国のどこでも若者がスマートフォンを操作)
世界のどの辺地でも通信可能(むしろに日本の方が遅れている状況に)
- (3) 2030年代の状況
SDGsに基づくアジア各地の公民館(CLC)で情報交流が進展し、アジア各地で情報ネットワーク(公民館—CLCネットワーク)を構築され、行政・産業・文化等の分野で影響を及ぼす時代になる。

これまでのCOINNが取り組んだ実績から、その社会基盤を再構築する役割を果たしたいと考える。

CLC: Community Learning Center の略で、日本の公民館に相当する。ユネスコが開発途上国の地方住民のための非正規教育(学校で正規の教育を受けなかった者への教育)や地域学習のために施設を構築したものが多い。

2. アジア関係国の開発構想から(アジアの動き)

- (1) アジアにおける先進国の構想
 - ①太平洋ベルト地帯
 - A I I B (アジア・インフラ投資銀行)
 - 東アジア設置のユネスコ・カテゴリーII (韓国)の有利性
 - ②一帯一路(中国経済支配の方針)
 - シルクロード経済ベルトと21世紀海洋シルクロード(囲い込み運動による日本発展のチャンスの減退の可能性)

(2) 日本・岡山の構想

地方の少子化・高齢化による不活性状態の脱却に向けて、相互の自治体間(市間交流)、産業間(企業人交流)、住民間(青年等)などのネットワークを結ぶことが勝ち残り、将来の発展に結びつく。アジア各地域でのCLC活動を通して社会基盤(住民自治会作り～人材育成～地域発展～生きがい・希望の提供など)を形成することがアジアから信頼・信用得て、日本の人材確保と経済発展にも繋がることになる。

3. アジア地域17万箇所CLCの有効利用と活性化が重要な課題

COINNは設立当初から国際協力NPOとしてCLCに貢献している。ここ10年では、ESDやSDGsの考えに基づいて、ネパールにおける地元若者の意識向上と人材育成に貢献してきた実績がある。上記2.(2)の構想を活かすためには、全県下のステイクホルダーがまとまって岡山県下一体化態勢で動かしていく必要がある。教育・産業・行政・NGO(NPO)等のスクラムが重要だ。

4. COINN活動実績から

- (1) ユネスコ・NGO認証申請(2018年12月末)が2019年1月29日に受理される。
これまで20年間の活動実績が大きく評価されたことによる。認可には4ヶ月～1年が書類検討等に費やされる。(別紙参照)
- (2) 上記の申請が2019年度前半で認可される可能性が高く、新たな組織構築が必要

5. 今後の活動目標

- (1) 地方自治体間連携構想の策定(岡山県、10市町村)
岡山県と協働して県下の10市町村に働きかける
- (2) COINNがこの活動のバックアップ組織として、関連団体(岡山発国際貢献推進協議会、岡山県国際交流協会、岡山国際経済交流協会など)と連携・協働運営する認証を得る働きかけ
- (3) 岡山への国際機関の誘致(ユネスコ・カテゴリーII)
上記(2)の上に行政を加えた組織による岡山県内総合関係者による国際機関の誘致(希望:COINNのユネスコ・NGO正式認定後から2～3年後までに結果をもたらす)

第二:COINNの実績(振り返り)

1. 1990年代

- 1991年:岡山県国際交流団体連絡協議会
- 2002年:岡山県国際団体協議会(COINN)
- 2004年:NPO法人岡山県国際団体協議会

2. 1990年～現在(国際会議・国際協力)

- (1) 海外NGO、関係機関のネットワークを構築(1994年～2003年)
- (2) ESD(ユネスコの考え)の広報手段を検討実施(2004年)ユネスコ・パリ本部との共催事業。DESDプロジェクト決定過程の国際会議とワークショップを実施。
- (3) 非正規教育と正規教育の協働を図る方策を検討実施(2005年)ESD推進のための教育の実態把握国際会議とワークショップを実施。
- (4) NGOと高等教育機関・国際機関と行政の協働・連携策について検討実施(2006年)ESD推進のための方策検討国際会議とワークショップを実施。
- (5) 国内外NGOと国内外の地域開発を促進する組織(Community Learning Center:CLC/公民館)の役割を検討実施(2007年～2010年)ESD推進拠点(公民館—CLC)を確認・稼働させるための事業(岡山宣言発表)
- (6) ESDを国内外の地域住民に啓発するケーススタディを行い「学びのプロセス」や「参加プロセス」の方法を検討実施(2011年)開発途上国におけるCLC職員の技能向上
- (7) 開発途上国へ公民館の運営ノウハウを移転(2011年～2013年)NGO(COINN)と公民館活動のノウハウを活用した「人づくり・組織づくり・地域づくり」—開発途上国でのノン・フォーマル教育による地域力向上・再生—
- (8) 2014年開催「ESD推進のためのユネスコ世界会議」に実行委員として参加
- (9) アジアの若者が故郷や生活の拠点(CLC/公民館)の向上に関わることができる事業を実施(2012年～2016年)
①特に2014年度は「ESDに関するユネスコ世界会議:2014年度ESD推進のための公民館—CLC国際会議運営委員として参加(全参加者:岡山コミットメント2014

発表)

②「アジア青年未来プロジェクト岡山拠点会議」アジアの青年と岡山の青年によるワークショップ—持続可能な社会の構築のために私達がすべきこと—

(10) 今後の課題を発掘しその方向性を企画 (2017年～)

開発途上国と日本(岡山)の青年達が生まれ育った故郷に貢献する事業計画(CLC地域おこし協力隊の結成等)の作成

第三：COINNの構想 (COINNの存在理由)

1. 日本・岡山の新たな国際貢献ができる地域はアジア各国のCLCにこそある
国連ユネスコが過去に設置したCLCが17万箇所を設置されているが、多くのCLCが十分に活かされていない現状にある
2. 各地CLCの支援の目的
 - ①人づくり、組織づくり、地域づくり
 - ②相互(日本・岡山とアジア各国間)の「ウイン・ウイン」の構築
3. CLCを中心にする理由
1ページ2(2)「日本・岡山の構想」と同じ
4. アジア各地にCOINN in JAPAN支部(カウンターパート)設置
 - (1) 南アジア(間接や可能性を含め現在設置や設置可能性国)
既存支部:ネパール、バングラデシュ(関係団体)
 - (2) 東南アジア(間接や可能性を含め現在設置や設置可能性国)
既存支部:ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー(関係団体)
 - (3) その他
5. COINN 組織変更
 - (1) 従来の部会からアジア地域交流部会(CLC地域活性化交流)
 - ①地域間子供・青年交流部会(青年受入れ)
 - ②公民館—CLC組織交流部会(相互研修・研究)
 - ③地域産業交流部会(語学学習)
 - ④地域大学交流部会(大学関係)
 - ⑤地域行政交流部会(例:ネパール文部省は岡山県庁とのMOUの締結を希望)
MOU:「Memorandum of Understanding(了解覚書)」
 - ⑥地域人材交流部会(
 - ⑦その他
 - (2) 国別部会の設置(部会長は理事兼務:活動報告義務)

①ネパール	部会	部会長	②バングラデシュ	部会	部会長
③タイ	部会	部会長	④ベトナム	部会	部会長
⑤フィリピン	部会	部会長	⑥ラオス	部会	部会長
⑦カンボジア	部会	部会長	⑧インドネシア	部会	部会長
⑨ミャンマー	部会	部会長	⑩モンゴル	部会	部会長
⑪スリランカ	部会	部会長	⑫ネグロス	部会	部会長
 - (3) 組織団体部会(国際機関関係:旧会員で新たな参加促進団体を含む)
 - ①岡山県ユネスコ連絡協議会
 - ②(財)日本ユニセフ協会 岡山県支部
 - ③日本ボーイスカウト岡山連盟
 - ④日本ガールスカウト日本連盟岡山支部
 - (4) ノウハウ提供部会
 - ①NPO法人 ハート・オブ・ゴールド

- ②こくさいこどもフォーラム（国際塾）
- ③コットン古都夢（フェアトレード）
- ④世界女性会議（女性の地位向）
- ⑤大学婦人協会岡山支部（語学教育向上）
- ⑥津山国際交流の会（世界青年受入）
- ⑦岡山青年国際交流協会（世界青年の船）

(5) 文化交流コミュニケーション部会

- ①中国部会
- ②ロシア部会
- ③韓国部会
- ④イタリア部会
- ⑤ドイツ部会

6. 新組織の検討委員会の設置

(1) Governing Board（監査機構）

ユネスコ職員（フランス・パリ本部派遣）、外務省（外務省国際文化協力室長）、文部科学省（国際統括官）、岡山県知事、各国ユネスコ幹事、岡山県内大学代表、岡山県内企業代表、岡山県内NPO代表（COINN）、YMCA代表

(2) 検討委員会の構成者（将来の実務組織10～13名程度）（交渉中又は交渉予定）

- ①委員：ユネスコ関係（想定：岡山県ユネスコ連絡協議会会長）
- ②委員：YMCA関係（想定：YMCA事務局長）
- ③委員：NPO関係（想定：COINN事務局長）
- ④委員：国際活動市民団体関係（想定：ライオンズクラブ事務局長）
- ⑤委員：「岡山県地域おこし協力隊ネットワーク会議」（想定：代表）
- ⑥委員：岡山発国際貢献推進協議会関係（想定：事務局長：岡山県国際課課長）
- ⑦委員：国際経済交流協会関係（想定：OIBA事務局長）
- ⑧委員：大学関係（想定：岡山大学国際戦略担当副学長）
- ⑨委員：国連職員関係（想定：ユネスコ等勤務経験者）
- ⑩委員：国会議員（想定：外務副大臣）
- ⑪委員：県議会議員（想定：国際活動関係）

(2) 事務局

- ①COINN事務局
- ②国際協力職員（新設置）
- ③Communication Officer（新設置）

(3) 提案スケジュール

- ①行政機関へ協議（新たな提案協議：知事秘書2019年5月14日説明）
- ②既存会員や旧会員に働きかけ
- ③準備委員会で協議（2019年5月17日理事会等で協議）
- ④理事会に基本案提出（2019年5月17日理事会等で協議）
- ⑤2019年度総会に提案（2019年6月1日総会提出協議）
- ⑥その他

(4) 2019年度総会議案

総会：日時：2019年6月1日（土）13:30～16:40

場所：岡山国際交流センター地下1階レセプション・ホール

ユネスコ国際機関誘致活動実績について

日時：2020年6月26日（火）

資料作成：NPO法人岡山県国際団体協議会
Conference of Okayama International NGO Network (COINN)

1. 誘致活動の発端

(1) COINN の活動実績

(2) 文部科学省担当者の推薦

2013年4月8日 ESD 世界会議推進局局長 浅井孝司氏面会（文部科学省から出向：
高谷市長当時）

(3) ESDに関するユネスコ世界会議の成果

2014年10月9日～12日 ESD 推進のための「公民館—CLC国際会議」

「岡山コミットメント（約束）2014」採択

（注）CLC (Community Learning Center)：コミュニティー学習センター

2. 誘致名称&内容

(1) 名称：

「アジア太平洋 CLC ユネスコ支援センター（仮称）」（カテゴリーII）の設置

（参考）既存国内カテゴリーII：アジア太平洋無形文化遺産研究センター（堺市）

水災害・リスクマネジメント国際センター（ICCHARM）（つくば市）

(2) 内容：

① 開発途上国（10カ国以上）にユネスコ等が設置した17万箇所のCLCを拠点としてそのコミュニティー（地域）の住民生活向上のための教育（基礎教育、産業教育、社会教育、地域向上教育等）を行い、生活向上を図ること。

② 将来、国際社会で必要として求められる下記能力を岡山エリアで育む事業を開発途上国と協働で行なうこと。

a) 世界（特に発展途上国）に開かれた広い視野を持ち、世界（特に開発途上国）の人々と協働して未来を切り開く能力。

b) SNSなどにより急速にグローバル化が進み、想定外の事象を相互協力で解決する能力（例：国際協働学習—海外校との交流）。

c) SNSを通じて各国の自治体間（住民）とのネットワークづくりによる情報収集能力と活用能力

(3) 支援・連携・協働対象国

南アジア：バングラディッシュ、ネパール、ブータン、インド、パキスタン

東南アジア：インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、フィリピン、ラオス等

(4) 広報内容

ユネスコ国際機関を岡山エリアへ（広報媒体作成）

3. ユネスコ誘致説明経過状況

(1) 2014年5月12日：岡山県足羽副知事面会→回答：岡山市長を説得すること

(2) 2014年8月16日：逢沢代議士岡山市長にTEL→岡山市長からの応答なし

(3) 2016年2月1日：岡山市長面会→回答：資金が検討できない

(4) 2017年12月12日：岡山大学榎野学長面会→回答：市長再選後意見の変更あり岡山市長と再調整を指示

(5) 2018年2月16日：倉敷市河田副市長面会→回答：資金が検討できない

(6) 2018年12月3日：倉敷市教育長面会→回答：市長に伝える

4. 新たな動き (COINN 事務局)

- (1) 2018年8月24日: SDGs 講演会 (COINN 主催)
講師: 岡山大学国際戦略担当 副理事 (当時) 横井篤文氏
内容: 岡山の国際都市化について
- (2) 2018年11月9日: 参議院議員 石井正弘 氏秘書 池田允之 (イダ ヲキ) 氏に面会 (協力了解)
- (3) 2018年11月25日: 世界のユネスコ・チェア (ユネスコ高等教育研究機関) 関係者 COINN 事務局を訪問される (北米、南米、ヨーロッパ、アジア)
- (4) 2018年12月17日~19日: COINN 事務局長 フランス・ユネスコ・パリ本部訪問 ユネスコ認定申請と受理通知
- (5) 2019年1月18日: 韓国カテゴリーII事務所訪問 (APCEIU) Dr. Chung Utak 所長に面会→回答: 今後岡山と提携したい。
初代所長 Dr. Samuel Lee (李三悦) に面会→岡山を再度訪問希望
- (6) 2019年2月6日: 木曾 功氏 (元文部科学省国際統括官, 千葉科学大学学長) に面会→回答: 財務省を説得可能な方を探すこと。木曾氏も検討される。
- (7) 2019年3月13日: 加藤勝信自民党総務会長に面会希望を秘書 (杉原洋平) に説明→回答: 後日連絡する
- (8) 2019年4月17日: 岡山県佐藤副知事面会説明 (国への要望をお願いする)
- (9) 2019年4月17日: 岡山県国際課課長 (小寺恵子)、総括主幹、主任に面会
今後の活動への協力依頼
- (10) 2019年5月14日: 岡山県知事私設秘書中山龍徳氏に面会→岡山県国際団体協議会 (COINN) のユネスコNGO団体認証を活かし、岡山県に将来国際機関を誘致する案
- (11) 2019年7月28日: 衆議院議員 逢沢一郎 氏に面会
- (12) 2019年8月2日: 岡山商工会議所 会頭 松田 久 氏面会 (同席: 岡山県ユネスコ連絡協議会 会長 鈴木昌徳 COINN 専務理事 橋本徹決)
- (13) 2019年9月25日: 岡山商工会議所 専務理事 高橋邦彰 氏面会
- (14) 2019年11月6日: 公益財団法人ワコースポーツ・文化振興財団 理事長 吉岡洋介氏に笠岡で面会

5. 誘致のメリット&デメリット

- (1) ユネスコの名称が利用可能 (岡山の情報の世界に拡散する)
- (2) 開発途上国への教育支援による岡山産業へのフィードバック (地域産業化事業支援)
- (3) 海外からのCLC関係者の多数の岡山訪問—各地域とのネットワーク化
- (4) 開発途上国各地からの大量の情報収集が可能となる。(岡山県内企業の海外展開)
- (5) ユネスコから運営資金は出ない。日本国政府、県内行政等の資金提供や国内企業の寄付が必要。各助成団体 (ADB、WB、JICA、民間助成財団からの資金は受理可能)
- (5) 日本政府、岡山県等 (市町行政体)、県内産官学NPO等の実行委員会による全県下の協力体制が必要
- (6) 誘致センター建設費不要: 岡山国際交流センターは海外のユネスコ施設と比較しても見劣りしない施設でありユネスコ国際機関センターとして合致されると思われる (全国一の国際施設としての存在)。

6. ユネスコ・パリ本部へのNGO認証申請

- (1) 申請時期: 2018年12月19日 直接パリ本部訪問
- (2) 受理通知: 2019年1月29日
- (3) 審査状況通知: 2020年3月19日 担当者からコロナ対策で遅延

7. 準備事務局(COINN)の対応状況

(1) ユネスコ誘致を支援する会 (仮称)

NPO/NGO関係者 (YMCA、ローリークラブ、ライオンズクラブ)、開発途上国貢献部会長関係者、ユネスコ関係者、国際活動関係者、議員関係者、行政関係者、文化関係者、教育関係者、企業 (経済団体) 関係者、金融関係者、メディア関係者、住民組織関係者 (町内会、婦人会) 等

(2) ユネスコ誘致実行委員会

上記(1)から委員を選抜する

(3) 上記実行委員会事務局

COINN事務局→COINN in Japan 基本構想

第24回スーパーノスタルジック夏祭り 7月28日(土) 雨天決行

浪漫ティック奉還祭

IN 奉還町商店街

オープニングパレード

15:30~ 若草幼児舎オープニングパレード(奉還町商店街の東口~わいわい広場)

奉還町りぶらステージイベント

- 15:40~ オープニングセレモニー
 - 16:00~ 石井幼稚園
 - 16:40~ なかよし保育園
 - 17:20~ 石井小イマージョンアトラクション
 - 18:00~ おもちゃ王国
 - 18:30~ ジャズダンス(ブルードラゴン)
 - 18:40~ アサヒレンジャー握手・撮影会
 - 20:10~ 大ビンゴゲーム大会
- (21:00イベント終了)

*開催時間や順番に多少の変更もあります。

地域交流イベント

奉還町商店街(2丁目各所)

- ★石井小学校の絵画・書道展示
- ★坪田譲治コーナー
- ★石井学区婦人会バザー
- ★愛育委員会(健康チェック)
- ★岡山済生会総合病院(健康チェック・医療相談)
- ★ファジアーノ岡山サッカーゲーム
- ★河田病院 SRC在宅介護支援センター「ねこの手」
- ★福祉の店「元気の輪」
- ★岡山西法人会(税金ゲーム、広報)
- ★防犯・交通安全ブース
- ★囲碁イベント
- ★富永薬局(こども薬剤師体験ブース)
- ★おかやま信用金庫屋台ブース
- ★奉還町屋台&バザー(奉還町商店街各所)
- ★朝日医療大学の夜店・友愛セール・健康増進体験コーナー

奉還町商店街(3丁目わいわい広場・各所)

- ★西奉還町屋台&ゲーム
- ★学生屋台村(専門学校ピーマックス) 15:30~
- ★国際交流イベント

奉還町商店街各所

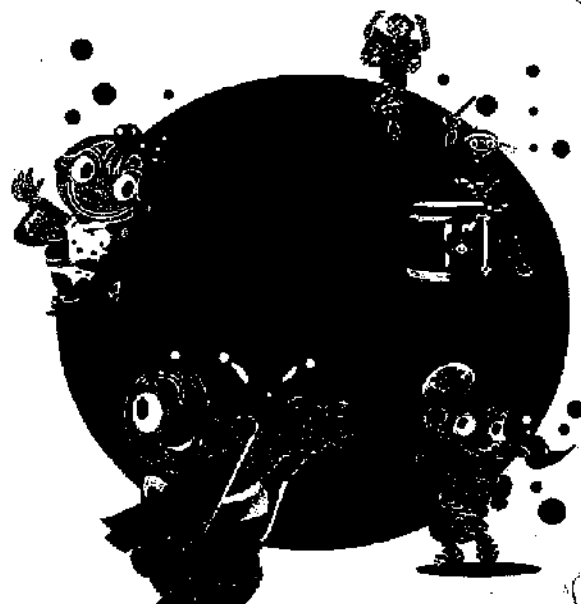
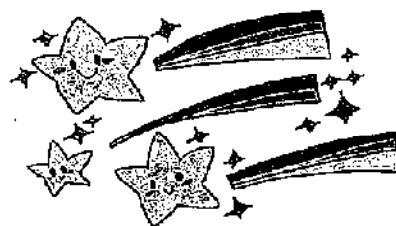
- ★団扇プレゼント 18:00~
(岡山西法人会青年部ブース、わいわい広場)

奉還町商店街ストリートバザール

◆奉還町商店街全店あけてのスーパーバザール 10:00~21:00

主催/ニューウエストウィンド2018実行委員会(石井学区連合町内会及び各団体)

連絡先/奉還町りぶら ☎086-252-1491



番号	目 標	内 容	海外招請代表機関	国内代表機関	岡山県内代表実施団体名					責任者	連絡先
					NPO・NGO	教育	行政	企業	その他		
No. 1	貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆるかたちの貧困を終わらせる			NPO法人岡山県国際団体協議会 こどもシェルターモモ		岡山県 岡山市 倉敷市			橋本敬決 西井菜子	
No. 2	飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、栄養を改善し、持続可能な農業をすすめる			NPO法人金光教平和活動センター		岡山県 岡山市 倉敷市			杉本健志	
No. 3	すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢の全ての人の健康な生活を確保し、福祉を推進する	国境なき医師団		日本・ミヤンマー医療人育成支援協会 ハートオブゴールド					岡田 茂 岡田邦子	
No. 4	質の高い教育をみんなに	全ての人への質の高い教育と生涯学習の機会を提供する				ノートルダム清心女子大学				横井寛文 西井麻美	
No. 5	ジェンダー平等を実現しよう	世界中で女性と少女が力を付け、ジェンダー平等を実現する			世界女性会議					時寛達枝	
No. 6	安全な水とトイレを世界中に	全ての人に持続可能な水の使用と衛生設備(トイレ、下水道など)を保障する			岡山ユニセフ協会			株式会社 川本		川本浩司 片岡雅子	
No. 7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	全ての人々が、安くで安定的に発電してくれる。持続可能なエネルギー(太陽光、風力などの再生可能エネルギー)が使えるようにする			おかやまエネルギーの未来を考える会					廣本悦子	
No. 8 14	働きがいも経済成長も	みんなが参加できる持続可能な経済成長を促進し、全ての人々が働き、働きがいのある人間らしい仕事ができるようにする			岡山県地域おこし協力隊ネットワーク会議 備野工房ちみち					藤井 裕也 加藤 せい子	
No. 9	産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラをつくり、みんなが参加できる持続可能な産業化を進め、新しい技術を生み出しやすくする				岡山大学	岡山県 岡山市 倉敷市真備	岡山県経済団体連絡協議会(岡山経済同友会)		神崎浩二	
No. 10	人や国の不平等をなくそう	国内及び国家間の格差と不平等を減少させる			岡山フェアトレードの会					野本恭子	
No. 11	住み続けられるまちづくりを	まちや人びとが住んでいるところを、だれもが受け入れられ、安全で、災害に強く、持続可能な場所にする					岡山市東山地区ESD推進協議会 倉敷市真備			池田密之 守屋美雪	
No. 12	つくる責任使う責任	生産と消費のパターンを持続可能なものにすることを促進する			NPO法人フードバンク岡山					糸山智栄	
No. 13	気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響を軽減するための緊急対策を講じる							公益財団法人おかやま環境ネットワーク	野上祐作	
No. 14	海の豊かさを守ろう	海と海洋資源を守り、持続可能な利用を促進する			NPO法人グリーンパートナーおかやま					藤原瑠美子	
No. 15	陸の豊かさも守ろう	陸の生態系を保護し、持続可能な利用を促進し、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地の劣化、生物多様性の喪失を止める			フォレストフォービープル岡山		真庭市			福井 学 山下武伺	
No. 16	平和と公正をすべての人に	平和的で、すべての人が強権に基づいた手続をとおれるようにするあらゆるレベルで効率的で説明責任ある能力の高い行政を実現する			RNN(宗教者NGOネットワーク)					黒住宗道	
No. 17	パートナーシップで目標を達成しよう	目標達成のために必要な行動を強化し、持続可能な開発に向けて世界の国々が協力する			岡山青年国際交流会				岡山県国際交流教会 岡山NPOセンター	肥塚 秀文 石原 達也 長木 愛	

COINN への加入メリットを充実するための提案

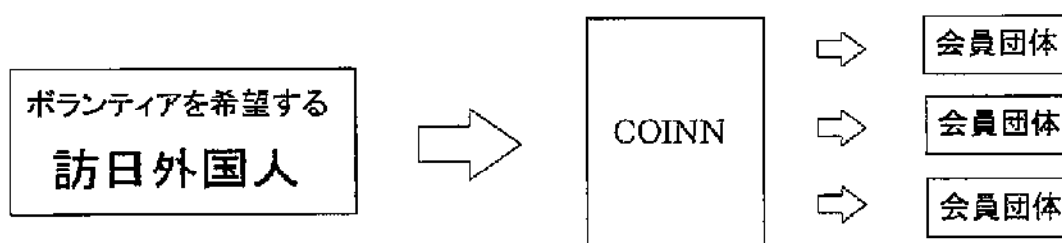
現状：近年、会員団体に置いて COINN に加入し続けるメリットが低下しているという意見が多く聞かれ、脱退する会員団体もでてきています。

提案：低予算で実現可能な事業として、COINN より会員団体の活動をお手伝いする「外国人出張ボランティア」を提案します。

現在、観光ビザおよびワーキングホリデービザを取得して来日し、観光だけでなく日本文化を体験し、人との触れ合いを重視する外国人が増加傾向にあります。

COINN はボランティアをしたい訪日外国人と、ボランティアを望んでいる会員とのマッチングを果たす役割を行います。

COINN 会員団体向けの出張ボランティア



運用の流れ

1. 会員団体に向け、外国人の滞在期間やボランティア可能なスキル等の案内をし、受け入れ希望団体を募ります。
2. 詳細な条件等を協議しマッチングできた場合は出張してボランティアを行います。
3. 実施後にホームページに簡単なボランティア活動の紹介文を掲載します。

詳細事項：

- ・ボランティアの1日の作業時間は1時間から3時間が目安です。
- ・1時間おきに10分程度の休憩を入れ、ミネラルウォーター等の飲み物を提供してください。
- ・作業時間が昼食・夕食時間にかかる場合は事前に食事の希望を確認し提供してください。
- ・体調や旅行日程変更等により当日キャンセルになる場合があります。紹介する外国人ボランティアが参加しないと成立しない形式のイベント等は避けてください。
- ・ボランティアの方の顔写真撮影時は使用用途を事前に説明して了解を取ります。

ボランティア作業例：印刷、ホッチキス止め、簡単な翻訳、イベント準備、ワークショップなどのイベント参加

実施目標：本年度は6月および10月から2月までの間に実施し合計5～10回程度。

COINN実施担当者：片山（理事・非常勤職員）



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

**The Assistant Director-General
for Priority Africa and External Relations**

Mr Tetsuo Hashimoto
Secretary General
Conference of Okayama International
NGO Network (COINN)
6th Floor, Okayama International Center
2-2-1 Hokan-cho, Kita-ke
Okayama-City
700-0026 Japan

28 JAN. 2019

Ref. PAX/MSP/INO/18/10636

Dear Mr Hashimoto,

On behalf of the Director-General, I would like to thank you for your letter of 18 December 2018, as well as for its attachments, transmitting the request of the Conference of Okayama International NGO Network (COINN) for official partnership with UNESCO.

In accordance with the Directives concerning UNESCO's partnership with non-governmental organizations, adopted by the Organization's General Conference in November 2011 (copy enclosed), your request will be processed through the customary internal consultation mechanism and, thereafter, you will be informed of the decision taken. Please note that, given the high number of applications, the processing of your request could take four months to a year.

I invite you kindly to address all further correspondence in this regard to Ms Sabina Colombo, Senior Desk Officer for Intergovernmental and Non-Governmental Organizations in the Sector for External Relations and Public Information (tel: +33 1 45 68 17 78; e-mail: ngo@unesco.org), who remains at your disposal for any further information you may require.

Thanking you for your interest in UNESCO's activities, I remain,

Yours sincerely,

Firmin Edouard Matoko

【申請受理の通知】

The Assistant Director-General
For Priority Africa and External Relations

Mr Tetsuo Hashimoto
Secretary General
Conference of Okayama International NGO Network (COINN)
6th Floor, Okayama International Center
2-2-1 Hokaicho, Kita-ku Okayama City 700-0026 Japan

Ref. PAX/MSP/INO/18/10636

To Mr Tetsuo Hashimoto

事務局長を代表して、岡山国際 NGO ネットワーク会議 (COINN) のユネスコとの公式パートナーシップの要請をお送りいただき、誠にありがとうございました。

2011年11月に組織の総会で採択された、ユネスコと非政府組織とのパートナーシップに関する指令(コピーに同封)に従って、あなたの要求は慣習的な内部協議メカニズムを通じて処理され、その後、その決定が通知されます。申し込みの数が多いため、リクエストの処理には4か月から1年かかる場合があります。

この点に関して、政府間および NGO のシニアデスクオフィサーである Ms Sabina Colombo, 対外広報・広報担当セクター (tel: +33 1 45 68 17 78; Eメール:) に、あなたが必要とする情報を得てください。

【受理後1年以上経過】

We hope this find you well.

This is to ask you again as to our application. You may recall I sent you an e-mail of inquiry on the matter (attached below) late January. For your reference I also attach herewith the e-mail you forwarded me from Mr Firmin Edouard Matoko in which he wrote "the processing of your [our] request could take four months to a year". It has been around one and three months since we made a formal application, and we are wondering what will be the result. Could you please let us know the current situation?

Okayama Prefectural Government, Okayama Municipal Government, and Okayama citizens who have promoted ESD and SDGs are very much concerned about it. Thank you in advance.

日本文

いつもお世話になります。

先月1月下旬に下記の確認のためのメールを送らせていただきました。同時に、貴方が私に送付してくださった通知文も添付します。その内容には4か月か1年以内に結果を連絡すると記述されています。すでに正式に申請して1年3か月経過しておりますが、申請の結果はどのようになっていますでしょうか。誠に忙しいと存じますがその結果をお知らせくだされば幸いです。

この件につきまして、ESD推進やSDGs推進を図っている岡山県、岡山市等行政や県民・市民も非常に気にしております。どうか経過状況の連絡を宜しくお願いいたします。

【現在最新の回答 2020年3月19日】

To the attention of Mr Tetsuo Hashimoto, Secretary General of the Conference of Okayama International NGO Network(COINN)

Dear Secretary General Hashimoto,

I am addressing you, on behalf of Ms Colombo and the Unit for Civil Society Partnerships, to update you on the status of the application of the Conference of Okayama International NGO Network(COINN) to official partnership with UNESCO.

Despite the current setbacks caused by the COVID-19 outbreak, we are glad to confirm that COINN's application is currently going through the evaluation process.

Once the process is fully completed, we will be glad to inform you of the final decision regarding COINN's application.

Thanking you for your time, we send all our sympathies to the people of Okayama and remain available should COINN require any further information.

Kindest regards,



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Luis-Alberto VARGAS ROJAS (Mr)
Unit for Civil Society Partnerships
Bureau of Strategic Planning (BSP)

7, place de Fontenoy
F-75352 Paris 07 SP
Tel: +33 (0) 145 680142

Skype: la.vargas-rojas@unesco.org
www.unesco.org

2020年3月19日

NPO法人岡山県国際団体協議会 (COINN)
事務局長 橋本徹決 様

橋本事務局長様

From Luis-Alberto VARGAS ROJAS (Mr)

Ms Colombo 氏と市民社会パートナーシップ・ユニットを代表して、ユネスコとの公式パートナーシップへのNPO法人岡山県国際団体協議会 (COINN) の審査状況について最新情報をお知らせします。

COVID-19 の大発生によって引き起こされた現在の後退にもかかわらず、私たちは COINN の申請が現在評価プロセスを経ていることを確認できてうれしいです。

プロセスが完全に完了したら、COINN の申請に関する最終決定をお知らせします。

お時間をいただき、ありがとうございました。岡山県民の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。COINN からさらなる情報を求められた場合にはいつでも対応いたします。

何卒よろしく願いいたします。

関係国政府、関係団体とのコミュニケーションの継続 報告書

—バンコック訪問（政府、ユネスコ、財団等）—

- 目的：①タイ関係政府との情報交換及びその事業実施状況の調査（特にCLCに纏わる状況）
②ユネスコ・バンコックの事務所の運営状況調査
③プラティーブ財団の現在の状況調査
④日本学術振興会タイ事務所訪問とその事業方針調査

日程：2019年9月8日～2019年9月12日

旅程：9月8日（日）バンコック着

9月9日（月）9:00-タイ教育省訪問

14:00-UNESCO タイ事務所訪問

9月10日（火）8:30 バンコック出発 アユタヤへ移動

10:00-プラナコーンシーアユッタヤ群

インフォーマル・ノンフォーマル教育センター見学

プ・サング地区他 CLC 活動見学

9月11日（水）14:00-ドゥアン・プラティーブ財団訪問

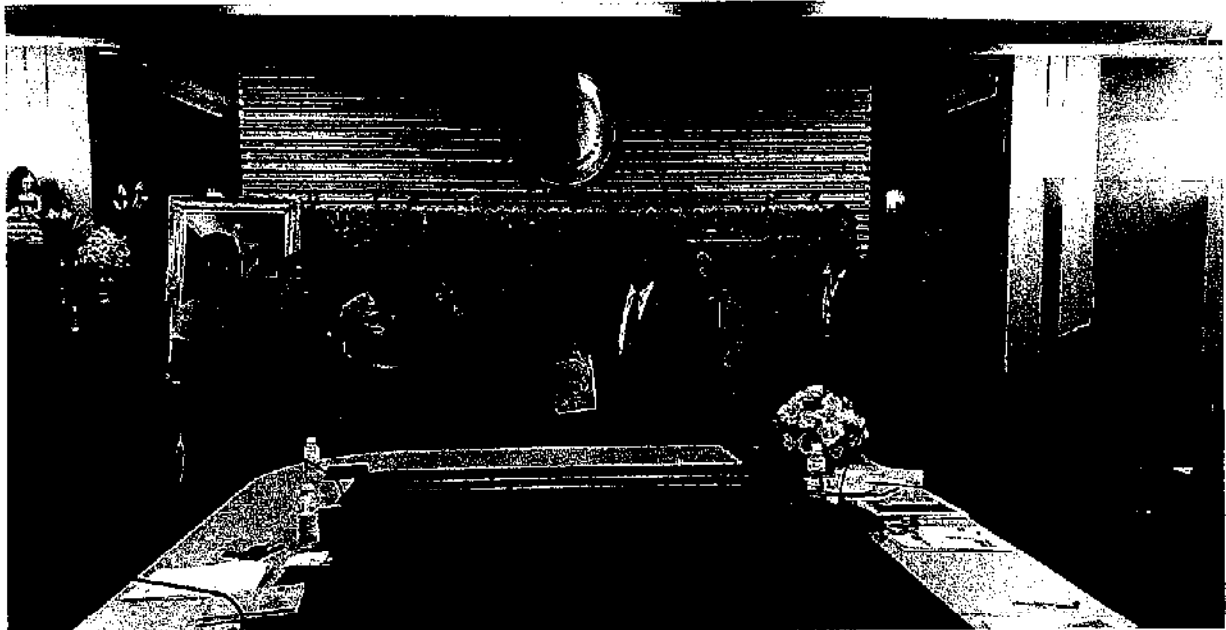
15:30-JSPS バンコック事務所訪問

バンコック発

9月12日（木）日本着

出張者：橋本事務局長

後谷（岡山大学職員：将来の COINN 事務局長候補）



タイ教育省訪問

Ms. Roong-Aroon Oman (Chief, Foreign relations Section, Planning Division) 中央左の女性
Ms. Parichart Yenjai (Office of the non-formal and informal education (ONIE)) その左の女性
(COINN 招聘者)

その他、専門家 Expert on Science Education dissemination (SCE),
Office of the non-formal and informal education (ONIE)

【タイ教育省訪問】

日時：9月9日 9:00-

場所：The Office of the non-formal and informal education,
Ministry of Education, Bangkok 10300, Thailand

対応者：Ms. Roong-Aroon Oman

Chief, Foreign relations Section, Planning Division
Office of the non-formal and informal education (ONIE)

Ms. Parichart Yenjai

Expert on Science Education dissemination(SCE),
Office of the non-formal and informal education(ONIE)

Officers from the non-formal and informal education development
Divisions and Officers from operation and promotion division of
Office of The non-formal and informal education

➤ 質疑応答：・ The Office of the non-formal and informal education 概要

The office of the non-formal and informal education

は1940年に教育省の一般教育部門が成人に対する識字率向上等の教育に注力を始めた事を発端に1979年には Department of Non-formal and Informal education 部門が設立された。2003年には組織は Office of the permanent secretary, Ministry of education 傘下の the office of The non-formal education commission (ONFEC)に移行した。その後へと移行した。

5年を経て現在の Office of the non-formal and informal education(ONIE)となった。

現在は全国の CLC を統括し識字率向上、より豊かな生活の為の職業訓練、生涯学習の機会の提供等を行っている。

・ CLC 活動の現状

各地区に CLC を設置し、各地区の教育向上に努めている。

教育省の予算を計上し、各地区の CLC にはファシリテーターを配置し、ファシリテーターは有給であり学士資格保持者で5年の契約としている。各地区の CLC は住民の教育の場であると共に、集う場として全世代の住民が活用している。

CLC はファシリテーターを中心にプロジェクトと称しその地区住民の経済力向上にも貢献しており、ステークホルダーや企業と協働し生活力向上にも努めている

・ 教育方法

CLC で直接住民に教育・指導を行うとともに TV・ラジオの専門チャンネルで情報や CLC で提供している情報を共有できる。

CLC では自由にインターネットが使えたり、外部講師を招いて教育も行っている。

・ タイの地方で生まれた若者は故郷を去り都会で働くことを好むか

教育・就職の為に地方を離れる若者はいるが、田舎に両親と子供を残し、

出稼ぎで都会にでる傾向がある。

- ・タイの若者は日本で働きたいという希望は多いか
現在タイ国内で仕事が多くあり発展してきているので海外で働くという希望より国内でより良い仕事に就きたいという希望が多い
- ・CLC の今後
地方産業創成の拠点として、CLC を展示場とし、e-commerce を利用し物品販売も行い地区住民の収入向上に貢献度を高める。
識字率は向上したため、さらに進化した読む・書くのみではなく"Khit-pen"(ヒットペン) = Critical thinking を重視した教育を行う。

【UNESCO タイ事務所訪問】

日時：9月9日 14:00-

場所：UNESCO Bangkok office

Asia and Pacific Regional Bureau for Education

Mom Luang Pin Malakul Centenary Building

920 Sukhmvit road, prakanong, klongtoei,

Bangkok 10110, Thailand

対応者：Ichiro Miyazawa

Programme Specialist in literacy and lifelong learning

Section of Educational innovation and skills development(EISD)



➤ 質疑応答：・タイ事務所の活動内容

アジアの拠点として各国政府との協働、UNESCO 活動を行っている。

その中に CLC を拠点とした地域住民への教育も含まれる

5,6 年前まではアジア拠点として各国の代表を招へいしての大会や会議を行っていたが、現在は SNS や you tube を使用しての情報発信を行い、チャンネル登録をしてもらい、CLC に行かなくても教育・情報教育を可能とすべくコンテンツの開発に注力している。また、閲覧履歴を分析することにより的確なコンテンツを届けることができる。

携帯やタブレットの発達により以上の配信が可能となりより多くの人に直接情報を届ける事が可能となった。

・情報配信について

コンテンツは細部にわたっており、QR コードを読み取ることにより簡単にサイトに飛ぶことができる。自分が興味のあるコンテンツを都合の良い時に閲覧可能である。また Google 翻訳機能を利用することで各国の言語での閲覧が可能

【タイ CLC 見学：地域おこし産業の育成状況】

日時：9月10日 10:00-

場所：Phra Nakhon Si Ayuthaya Province education center

プラナコーンシーアユッタヤ群

インフォーマル・ノンフォーマル教育センター見学

プ・サング地区他 CLC 活動見学

対応者：センター長、プ・サング地区長他

地区 CLC 関係者

➤ 質疑応答・見学内容

- ・ プ・サング地区 CLC：アヒルの卵の加工品、マッシュルームの菌床、Hyacinth を使用した製品（紙・箱・お皿・服（布））の作成方法等を見学
- ・ 付加価値をつけることで販売価格を上乗せできる
- ・ Hyacinth は運河に自生し繁殖することによりしばしば運河をせき止め洪水の原因となる。アユタヤ地区は川が多く常に Hyacinth が問題となっていた。住民は定期的に根から植物を取り除き清掃を行いすべてを廃棄するという労力的にも経済的にも住人に多くの負担が強いられていた。
- ・ CLC ファシリテーターのアイデアとキャノン（機械提供）と地域の大学のアドバイス（マーケティング、デザイン）つまり産学官の協働により、Hyacinth を製品として提供できるようになった（4年前から開発を開始）
- ・ 葉の繊維を煮詰め・紙皿・箱に加工→展示会に出展し現在はアメリカに輸出茎の繊維をキャノンが提供した機械で抽出→繊維を糸にし布を織る→縫製→服のデザインやマーケティングは大学が協力他地区の CLC：籐の籠の作成
- ・ 地域の教育の場とともに老人の集う場所としての CLC として活用ドイツ大使館の資金提供を受ける

【ドゥアン・プラティープ財団訪問】

日時：9月11日 14:00-

場所：Duang Prateep Foundation

No 34 Lock 6, Art Narong Road, Klong Toey Bangkok 10110 THAILAND

対応者：プラティープ・ウンソンタム・秦代表

他財団スタッフ

➤ 質疑応答：・財団の現状

財団はフィリピンのラモン・マグサイサイ賞（社会福祉部門）の受賞賞金によって1978年に設立された。その後も代表が受賞した賞の賞金や寄付等で運営されている。スラム街に幼稚園・消防団・信用組合等を作りスラム街住民の環境改善、現在は政府からの立ち退き要求への対応を行っている。比叻山天台宗からも支援を受けている。



橋本の左隣が2014年“アジア青年未来プロジェクト”で来日したタイ代表青年
2014年に7か国の各地で青年主張コンクールを行いタイでの優勝者です。

橋本の右隣りが Duang Prateep Foundation のプラティープ・ウンソンタム・秦代表

【JSPS 独立行政法人日本学術振興会バンコク事務所訪問】

日時：2019年9月11日 15:30

場所：JSPS Bangkok Office

No.1016/1.10th Fl. Serm-mit Tower 159 Sukhumvit Si20, Bangkok 10110

対応者：山下邦明センター長他

➤ 質疑応答：・JSPS 概要説明など

独立行政法人日本学術振興会 (*Japan Society for the Promotion of Science*) は、文部科学省所管の中期目標管理法たる独立行政法人で同省の外郭団体です。学術研究の助成、研究者の養成のための資金の支給、学術に関する国際交流の促進、学術の応用に関する研究等を行うことにより、学術の振興を図ることを目的としています。日本学術会議と緊密な連絡を図っている。

【COINN の J S P S 訪問趣旨】

COINN の場合は、例えば、CLC の関係で地域の産業起こしを行っている開発途上国等の CLC 団体と現地大学並びに岡山に於ける大学や公民館等と連携して地域開発の事業を行うための研究資金を提案することが可能。



橋本の右隣りが山下邦明氏（ユネスコ・パリ本部に職員として10年以上勤務）
左端と右端の青年は、日本の国立大学の職員からタイへ派遣された方です

ブルガリアOKAYAMA 交流支援特別講演

岡山市ESDに関するユネスコ世界会議5周年記念事業支援公開講演会・発表会



日程

2019年11月9日（土）
13：30～16：15
（13：00より受付開始）



場所

ノートルダム清心女子大学
ヨゼフ300（ヨゼフホール3階）



参加費 **無料**



基調講演

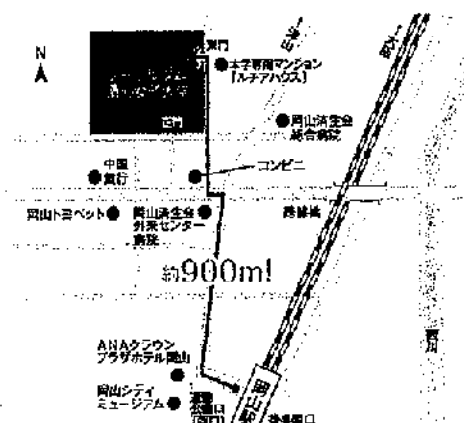
白砂伸夫氏（神戸国際大学 教授）
「ブルガリアとバラ、香しい花」

ブルガリア訪問団報告：清心女子高等学校



岡山市「ESD・ブルガリア交流事業」に係る報告：
岡山市（ESD推進課、スポーツ振興課）

ACCESS MAP



当日の交通手段については、
公共交通機関をご利用ください。

主催：ノートルダム清心女子大学

共催：岡山市

後援：岡山市教育委員会

特定非営利活動法人岡山県国際団体協議会

協力：ブルガリア大使館

清心女子高等学校

岡山市立中央図書館

国際活動団体・ネットワーク・フォーラム（案）

1. 事業概要

- (1) 名 称：国際活動団体・ネットワーク・フォーラム
- (2) テー マ：「国際活動団体のネットワークの価値はどこにあるかー私たちが協働すべきことー」
- (3) 開 催 日：2019年10月26日（土）13:00～17:00（2020年以降に延期）
- (4) 開催場所：岡山国際交流センター8イベントホール
- (5) 主 催：（特）岡山県国際団体協議会、岡山発国際貢献推進協議会、JICA
- (6) 後 援：岡山県、（一般財団法人）岡山県国際交流協会、岡山市、倉敷市、（社）（交渉予定）岡山県国際経済交流協会、大学コンソーシアム（岡山大学、ノートルダム清心女子大学）、（特）関西国際交流団体協議会、岡山YMCA、中国NGOネットワーク、岡山立京山公民館、奉還町商店街組合
- (7) 開催趣旨：

当団体が理事となっている岡山発国際貢献推進協議会は、国際活動関係団体（NGO、行政、企業、大学等）のネットワーク組織での活動が10年以上となります。この間、COINNの団体を含めて、各団体は、「岡山県国際貢献活動推進条例」に従い、国際交流、国際理解、国際支援、国際貢献等の段階を経ながら国際活動を行なって参りました。

しかし、世界のグローバル化やIT化によるSNS（Social Networking Service）に伴う社会変革、経済変動等により相互にノウハウを共有し、情報共有ネットワークを構築しなければ、つまり個別の団体の力だけの事業実施は不可能となりつつあります。

そこで、「晴れの国*おかやま生き生きプラン」にありますように「次代を担う若者が世界の若者と共生しながら住み続ける地域」となるためにも、その趣旨も生かしてワークショップによる課題、問題点を列挙して前向きな方策を見つきたいと考えます。

(8) 実施方法

①基調講演（全体時間 60分）

テーマ：国際活動団体・ネットワーク・の活かし方ワン・ワールド・フェスティバル（Since 1993）を通してー

講 師：（特）関西国際交流団体協議会理事長又は事務局長 又はワン・ワールド・フェスティバル実行委員長

②ワークショップ出席者（予定含む）

COINN会員、JICA中国、岡山県国際課、岡山市国際課、（財）岡山県国際交流協会（理事会、運営委員会）、倉敷市国際課、岡山大学（教師、学生）、ノートルダム清心女子大学（教師、学生）、吉備国際大（教師、学生）、岡山YMCA、中国NGOネットワーク、岡山立京山・岡輝公民館、奉還町商店街連合組合、近隣のNGOネットワーク団体（関西国際交流団体協議会、えひめグローバルネットワーク）、在住外国人（5カ国以上）

③討議テーマの決定

事前にある程度テーマを準備する

④ワークショップ実施方法（全体時間120分）

ア) 各テーブル10名とし5グループ構成する。

イ) 各テーブルにファシリテータ1名+記録者1名選抜

ウ) 手順（120分以内=各グループ60分+全体30分+予備30分）

- ・各グループ出席者自己紹介5分
- ・役割決定（ファシリテータ、記録者、発表者、意見カード纏め者）2分
- ・ディスカッション又はブレインストーミング30分
- ・纏め10分
- ・発表10分
- ・全体まとめ20分（5グループ）
- ・意見集約

国際貢献 NGO フェア



国際貢献・国際協力等の分野で活躍している岡山県の NGO の活動をご紹介します。

下表のとおり 1 週間ごとのリレー形式でパネル展示を行います。また、団体名の後に (*) の表示がある 4 団体は、独自企画によるセミナー等を開催します。詳しくは、裏面をご覧ください。

皆様のご来場をお待ちしています。

開催期間：令和 2 年（2020 年）1 月 9 日（木）～3 月 28 日（土）

パネル展示期間：令和 2 年（2020 年）1 月 9 日（木）～3 月 25 日（水）

※各団体のパネル展示は、各週最終日の午後 3 時に終わります。

開催場所：岡山国際交流センター（岡山市北区奉還町 2-2-1）

パネル展示：1 階ロビー、各団体による企画イベント：裏面参照

各団体のパネル展示期間	展示団体
1 月 9 日（木）～ 1 月 15 日（水）	NPO 法人岡山県国際団体協議会 (COINN)
1 月 16 日（木）～ 1 月 22 日（水）	タフウェブプロジェクト(*)
1 月 23 日（木）～ 1 月 29 日（水）	日中友好協会岡山支部
1 月 30 日（木）～ 2 月 5 日（水）	特定NPO法人 日本・ミャンマー=医療人育成支援協会
2 月 6 日（木）～ 2 月 12 日（水）	日本ボーイスカウト岡山連盟
2 月 13 日（木）～ 2 月 19 日（水）	岡山青年国際交流会(*)
2 月 20 日（木）～ 2 月 26 日（水）	岡山ユネスコ協会
2 月 27 日（木）～ 3 月 4 日（水）	NPO 法人国際協力研究所、岡山(*)
3 月 5 日（木）～ 3 月 11 日（水）	NPO 法人岡山日本語センター (OJC) (*)
3 月 12 日（木）～ 3 月 18 日（水）	岡山エスぺラント会
3 月 19 日（木）～ 3 月 25 日（水）	岡山発国際貢献推進協議会

《パネル展に関する問合せ》

主催：一般財団法人岡山県国際交流協会 (OPIEF) 企画情報課

〒700-0026 岡山市北区奉還町 2-2-1 岡山国際交流センター1 階

TEL：086-256-2914（月曜～土曜 9:00～17:00）

FAX：086-256-2489

E-Mail：info@opief.or.jp

URL：http://www.opief.or.jp/



共催：特定非営利活動法人岡山県国際団体協議会 (COINN)



展示団体による企画イベント

日 時 場 所	団体名 開催内容及び連絡先
<p>2月15日(土) 18:00~20:00 5F 会議室(3)</p>	<p>岡山青年国際交流会 「内閣府青年国際交流事業」説明会 ～船・航空機による日本青年海外派遣～ 申込不要 【問合せ】TEL: 090-6865-9009 筒井 <small>つつい</small> Email: iyeao@hotmail.com </p>
<p>2月29日(土) 17:00~19:00 5F 会議室(1)</p>	<p>NPO 法人国際協力研究所・岡山 「プレ設立10周年 “ESD for SDGs by ICOI” 活動報告及び講演会」 申込不要 【問合せ】TEL: 080-5234-6534 竹島 <small>たけしま</small></p>
<p>3月22日(日) 14:00~15:30 5F 会議室(3)</p>	<p>ダフェプロジェクト 「多文化共生社会を考えよう」 (参加者にはネパールグッズをプレゼント) 要申込: 定員 10名 【申込・問合せ】 TEL: 080-4267-4789 E-mail: danfeoproject2998@gmail.com 江見 <small>えみ</small></p>
<p>3月28日(土) 13:30~15:00 5F 会議室(1)</p>	<p>NPO 法人岡山日本語センター(OJC) 令和元年度第2回 日本語教育研修会 「外国人労働者の現状について」 講師: 行政書士 森 淳氏 <small>もり きよし</small> 申込不要 【問合せ】 TEL: 090-6400-6022 浦上 <small>うらがみ</small></p>

参加費は無料です。

会場は、すべて岡山国際交流センター内です。ふるってご参加ください。

各イベントの詳細については、上記の各団体担当者にお問い合わせください。

NPO 法人 岡山県国際団体協議会(COINN)の事業紹介



NPO法人岡山県国際団体協議会(COINN) 事業紹介 ～「ESDに関する世界会議(2014,岡山)」誘致に至るまで～ ～そしてその後～

団体紹介

- 団体名 NPO法人 岡山県国際団体協議会
- 1991年創立
- 岡山県内の各種国際活動NGO団体(2018年8月現在:加盟70団体)からなる連合組織
- 主な活動
 - ESDやSDGsに関する国際会議やワークショップの開催
 - 2014年に岡山で開催された「ESDに関する世界会議」へ繋がった(UNESCOや各自治体と連携し、1984年以降継続して行っている)
 - 発展途上国のCLC(Community Learning Center:公民館)の活動支援(海外NGOとのグローバル・パートナーシップを活かし、FOLIO地域おこし協力隊派遣)等の活動を展開している)

世界都市おかやま 「世界が必要とする街」をめざして!

西のジュネーブ・東のおかやま

ローカルNGOを中心とした人道援助ネットワークを形成し、国連機関を中心とした人道援助活動を行う「西のジュネーブ」にとって、良きパートナーとなることを目指しています。

GENEVA	OKAYAMA
●ジュネーブの強み	●おかやまの未来
国連人道援助活動の発展地 UNEP/WHO/UNLV, Change2	民間人道援助活動の発展地 NPO連合会
●国際NGO	●国際NGO
国連を中心とする国際NGO	フロンティア・アジア・パシフィック・NGO
●NGOの力	●NGOの力
人道支援に専念 [人員として中心となる]	国連に比較して専念する [資金調達と、国連と の連携に専念]
●国連機関として長年培ったノウハウ	国連、国府、国連と連携 して活動するノウハウ

活動紹介

第1段階 1994～2003

ユネスコ・パリ本部職員参加によるユネスコESDプロジェクトを生む
海外ネットワーク形成事業実施

1994年 第1回おかやま国際貢献NGOサミット

テーマ In the Hope of a Better Life for All

「緊急救援医療」をメインテーマとし、岡山を世界のローカルNGOの世話役にしてほしいという思いから「おかやま国際貢献NGOサミット」が開催された。世界各国32か国のローカルNGO団体が参加し、活動報告と「緊急救援医療」適正技術研修などが行われた。

特別参加者: 瀬戸内康徳 氏



1995年 第2回おかやま国際貢献NGOサミット

テーマ 生存のための教育

NGOとユニセフの開発現場での経験を基に、生存のための知識を、特に途上国において、どのようにして広めていけばよいか、途上国でのそのような取り組みを、日本で活動する人々が、どのようにして協力していけるのかを幅広く討論し、努力の重要性の意義を再認識する場を設けた。

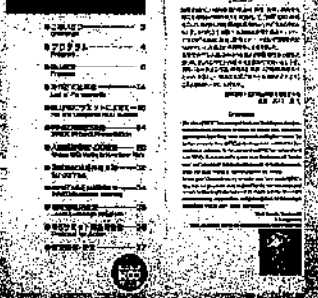
特別参加者: Hakim Mohammed Said 氏



1996年 第3回おかやま国際貢献NGOサミット

テーマ 「おもいやりの心」を
世界の人々とともに

「INNED市民交流会」を開催し、市民に海外のローカルNGOの活動を紹介した。また、相互扶助の精神で人道支援を行う国内外の宗教NGOによる協力が注目される「人道援助宗教NGOネットワーク」が設立された。



1997年 第4回おかやま国際貢献NGOサミット

テーマ 環境問題

「生活に係わる水環境」というテーマで開催された本会議は、ユネスコ海洋学研究所のイー・ハン・シキム氏が「西太平洋の海洋汚染と沿岸流域の水環境」と題して基調講演を行った。

特別参加者: ユネスコ・サイキョク員 Dr. Yihang Xiang 氏



1998年 第5回おかやま国際貢献NGOサミット



テーマ:福祉・バリアフリー社会をめざして「福祉」をテーマとし、「人にやさしい街づくり会議」を開催した。岡山、倉敷の市民を中心に、子どもからお年寄りまですべての人にやさしい街を実現させるため、ユニバーサルデザインによるバリアフリー化、さりげない気配りのなされた街づくりを提案した。

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Yuki Marabe 氏



特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Yuki Marabe 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Yuki Marabe 氏



1999年 第6回おかやま国際貢献NGOサミット



テーマ:人間尊重

国際環境ネットワーク会議を行い、私たちの暮らす地球全体の「持続可能な未来」の実現を果たすためには、「環境学習」の推進を図るべきであること、地球全体の「市民の連携」が重要であることが確認された。

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Kunitada Yamashita 氏
Gustavo Lopez Osorio 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Kunitada Yamashita 氏
Gustavo Lopez Osorio 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Kunitada Yamashita 氏
Gustavo Lopez Osorio 氏



2000年 第7回おかやま国際貢献NGOサミット

テーマ:未来のための教育

昨年に引き続き国際環境ネットワーク会議を開催した。「環境教育-新千年紀の持続可能な開発の鍵」をテーマに、各国(ベトナム・韓国等)の環境教育実践例や現状、今後の課題を話し合った。

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Orlando Hall Neze 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Orlando Hall Neze 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Orlando Hall Neze 氏



2001年 第8回おかやま国際貢献NGOサミット



テーマ:子どもサミット

2001子どもサミット大会宣言を発表し、岡山市内の小学校とアジア諸国(スリランカ・ネパール・インドネシア等)の子どもたちが交流し合い、お互いの文化や価値観を共有しながら相互理解を図った。

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Gustavo Lopez Osorio 氏
ESD担当部長 Gustavo Lopez Osorio 氏
文部科学省 国際統括官 白川哲久 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Gustavo Lopez Osorio 氏
ESD担当部長 Gustavo Lopez Osorio 氏
文部科学省 国際統括官 白川哲久 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Gustavo Lopez Osorio 氏
ESD担当部長 Gustavo Lopez Osorio 氏
文部科学省 国際統括官 白川哲久 氏



第2段階 2002~2003

ユネスコ/パリ本部が東南アジアのESD推進拠点を岡山へ設置するよう指導

2003年 第10回おかやま国際貢献NGOサミット

テーマ:持続可能な開発(発展)のための教育10年

おかやま国際貢献NGOサミットが10周年を迎えた。今回の国際会議において改めてESDの重要性が確認され、ESDの各分野別(平和構築・ジェンダーの平等と女性の地位向上等)の分科会が行われた。

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Orlando Hall Neze 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Orlando Hall Neze 氏



第3段階 2004

DESD(ESDプロジェクトの10年)推進事業をユネスコ/パリ本部と共催

2004年 国際貢献NGOワークショップ

持続可能な開発のための教育(ESD)ユネスコ/パリ本部との共催事業

本ワークショップはESDを普及し推進するためのマルチメディア情報通信ツールの活用方法などについて意見交換し、具体的な実施例の制作を行うことを目的として開催された。

文部科学省 国際統括官 井上正幸 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Orlando Hall Neze 氏

特別参加者:ユネスコ/パリ本部職員 Orlando Hall Neze 氏



第4段階 2005~2006

ESD推進方策検討国際会議

2005年 おかやまESD国際ワークショップ

テーマ: フォーマル教育とノンフォーマル教育が協働するために

ESD推進のため、地域社会の中で学校外の社会がどのように協働できるのか、NGO・NPOの役割を認識しながら自治体・大学等と連携し、地域の初等教育や生涯教育へのノウハウや人材を提供していく必要性が話し合われた。

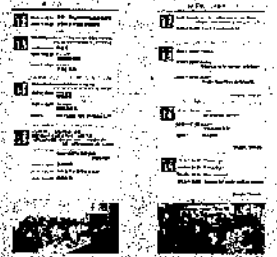
特別参加者: ロイヤルメルボルン工科大学
Jose Roberto Guivara 氏



2006年 おかやまESD国際会議

テーマ: 持続可能な社会を目指して

おかやま国際貢献NGOサミットの経験を引き継ぎ、岡山大学と協力して国際会議が開催された。ESDを推進するための大学やNGO/NPOの取り組みの現状と課題が活発に議論された。



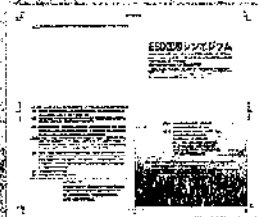
第5段階 2007~2010

ESD推進「公民館＝CLC」がベストである岡山宣言発表、稼働事業実施

2008年 ESD国際シンポジウム2008

テーマ: 地域・食・ESD

この会議では、地域・食・ESDをテーマとし、岡山のNGOの方々が生産者の公民館やその他を拠点としてESDを推進している実情を説明し、それを海外のコミュニティーリーダーやボランティアに関わる海外の関係者の方々に紹介すると同時にESDを推進する項目の重要性に関する教育についてお互いに提案や意見交換を行った。

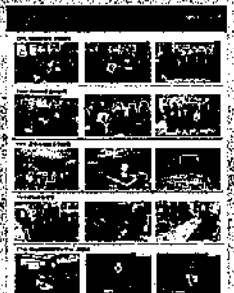


2009年 ESD国際シンポジウム2009

テーマ: 公民館/CLC/NGOによるESDを活かした地域力の向上・再生を目指して

「公民館/CLC/NGOによるESDを活かした地域力の向上・再生をめざして」をテーマとし、参加各国の地域社会の目標を設定し達成していく力、自らの課題(開発課題)を発見・解決する力の状況を学び、岡山の地域と招待国の地域における個人・組織・地域社会などの複数のレベルの力は、はたがどのようなものであるかを判断しながら、互いの社会の発展を促進するための方法を協議した。

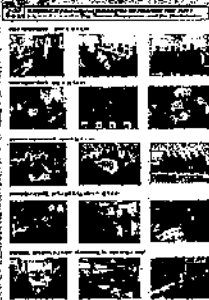
特別参加者: 岡山大学
(特別参加者: 岡山大学)



2011年 国際会議(研修生受入&ワークショップ)

テーマ: 開発途上国のCLC運営向上

「研修生受入及びワークショップ」事業が、開発途上国や先進国である日本・岡山におけるCLC職員/公民館職員に技能向上のために各公民館/CLCの基本的運営方法、人の組織化への活用、生産の生産方法等の相互の研究・研究を通じた相互理解を図ることと目的として行われた。



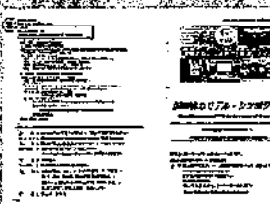
第6段階 2011~2014

「公民館＝CLC」の地域向上策検討国際会議と現地調査(行政機関・国際調査の国内教育システム状況)

2010年 国際協力モデル・シンポジウム

テーマ: 開発途上国へのさらなる貢献

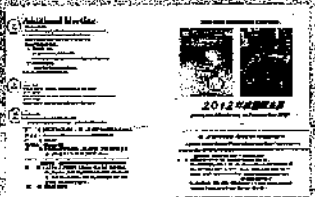
今回の会議では、開発途上国へのさらなる貢献を行うために岡山の公民館と開発途上国におけるコミュニティーセンター(CLC)の役割を認識しながら相互にESD的な視点で「国際協力モデル」を展開する方法について「地域づくり」のための「人づくり」「組織づくり」の方法を協議した。



2012年 第1回アジア青年未来プロジェクト

テーマ: 持続可能な社会構築のために私たちがすべきこと

開催趣意として、各国の青年達がアジアの未来と各国との国際協力目標を定めることと同時に、先進国が持続可能な社会の構築であるという目標を持つことら等とを目標にアジア各国(ベトナム、スリランカ、韓国、インドネシア、カンボジア、バングラデシュ(日本)の留学生等を中心にワークショップを行った。



2013年 第2回アジア青年未来プロジェクト

テーマ:公民館/CLCを拠点としたESD推進による地域力再生・向上

CLC/公民館と共に地域に関わって来たアジアの青年達と共に「アジア青年未来プロジェクト」と銘打って、ESDの推進拠点であるCLC/公民館の運営方法、発展方法を考え、これを下に地域社会の発展をESDの考えを組み込みながらどのような実施策があるかを各拠点検討するための海外会議と総合的に検討する総括会議を開催した。



2014年 第3回アジア青年未来プロジェクト

テーマ:ESDの考えに基づくソーシャル・ビジネスのモデルとCLCによる地域力の向上・再生

会議の趣旨を「ESD推進のための公民館-CLC国際会議」とし、「地域に於いて経済的に自立することを旨としながら、互いに支え合う地域づくり」について話し合われた。



特別にアジア青年未来プロジェクト推進委員会
CLC推進委員会
CLC推進委員会

2015年 第4回アジア青年未来プロジェクト

テーマ:青年の地域定住促進のためのCLC地域おこし(ネパール)

ネパールと岡山双方で、①ネパールと岡山で若者たちが中心となってソーシャル・ビジネスを展開させることをめざし、②ネパールでの具体的な実践例と岡山県内の同様のソーシャル・ビジネスの取組み事例をもとに学ぶこと、③岡山における公民館等でのESDを契機としたソーシャル・ビジネスに関する学びの場をつくり、公民館を拠点とした地域力向上・再生の道筋を探ること等を目的とした国際会議を開催した。



第7段階 2015～

「公民館-CLC」地域の基本産業創出のCLC職員人材育成資格制度
CLC地域おこし協力隊派遣や訓練所設置構想創出

2016年 第5回アジア青年未来プロジェクト

テーマ:青年の地域定住促進のためのCLC地域おこし(ネパール)

2016年度の行ったネパール農村青年カマワ等農業実習を基に、2016年度の1年間相互に研究しながら各農場で行った結果の状況を報告した。また、「開発途上国のCLCを中心とした「人材づくり」「組織づくり」「地域定住促進産業づくり」の重要性を確認した。



2017年 第6回アジア青年未来プロジェクト

テーマ:ネパール農村青年による居住村落の「社会マップ・資源マップ・移動マップ・サービスと機会マップ」

特定の地域の人々の居住様式を描き出す社会マップ、地域の自然資源に焦点を当てた資源マップ、人々がどこに行き、何の目的で移動するのに焦点を当てた移動マップ、利用できるサービスや機会に対する地域住民の認識を見守るサービスと機会マップ等を調査した。



今後の活動「CLC地域おこし協力隊派遣」

ネパールにおける地域おこし協力隊の構築を目指す。

ネパール青年は、岡山と同じく「知恵を持って産業を興そうとする精神が湧き出ている。その活力を支援するCLC地域おこし協力隊員を日本から派遣する事業を計画している。



(様式第4号)

事業報告書

事業名	特定非営利活動法人岡山県国際団体協議会活動支援助成事業					
実施期間	平成31年4月1日から令和2年2月29日まで					
実施場所	岡山国際交流センター6階					
事業の内容等	<p>1 印刷機の管理・運営方法 (1)利用帳簿の作成及び利用記入指示(2)利用方法の指導(3)インク、マスターの購入及び交換(4)故障時の確認及び修理手配(5)その他印刷機を維持するに必要な事項</p> <p>2 利用実績(利用団体、利用件数等) リソグラフ:利用団体:16団体 利用件数:60回 印刷枚数:約 39,000枚 コピー:利用団体:4団体 利用件数:30回 印刷枚数:約 550枚 上記利用団体のうち全会員向け利用のためのCOINN事務局の利用枚数が約23,000枚(定常総会、臨時総会、国際会議、各連絡会議等)でありインク代の援助を引き続きお願いいたします。所属会員で定期的に会議を行いリソグラフを利用する団体があり引き続き利用が可能となるようお願いいたします。</p> <p>5. 保守管理の状況 (1) 利用リソグラフを更新したため印刷スピードが速くなり、今年度も紙詰まり等故障が無い状況が続いている。 (2) 昨年(平成30年度)にキャノンの小型のFAX・コピー併用型に更新したため、超小型になり便利がよくなった。コピー上の刷り上がりが斜線が入るがこれは解決した。 (3) リソグラフが最新機種ではないが、現状の機種(SF525)で使用方法やマスター等の交換方法の問い合わせが昨年より減少してスムーズに利用できた。</p>					
事業の成果	<p>1. リソグラフの利用 2017年の12月から更新して使用開始した。最新式ではないが、以前の20年以上の前のタイプと異なり、印刷スピード、白黒の明細、メンテナンス(ガリ版の取替えが容易、紙詰まりが無し)が非常に楽となった。</p> <p>2. 室内コピーの利用 これまでの室内コピー機は20年以上の前の旧式のコピー機(FAX併用)であった。もの自体は、大きなタイプで故障しても取替え部品が生産されていないことで利用不能となった。新たに、昨年度、キャノンの超小型のコピー機とFAX併用のものを更新し、現在、非常に重宝している。</p>					
収支決算	収 入			支 出		
	項 目	予算額	決算額	項 目	予算額	決算額
	助成金予定額	100,000	100,000	インク代(リ)	26,000	13,080
	自己資金	82,000	31,817	インク代(室)	19,000	18,639
	利用料金	8,000	0	マスター代	40,500	15,552
				リース料(日立キャビタ)	88,128	80,784
				修理費	10,000	0
				その他(文具、振込み手数料等)	6,372	3,762
収入額合計	190,000	131,817	支出額合計	190,000	131,817	

**トヨタ財団 2019年度 特定課題
「外国人材の受け入れと日本社会」 企画書**

フォントは11ポイントの黒字とし、記入枠内に全て表示されるように記入してください。枠の大きさの変更、紙面の追加などは認められません。写真や図表などの挿入は可能ですが、PDF変換後のデータは1MB以下にしてください。それ以上の大きいファイルは受け付けられません。

1. 企画（プロジェクト）概要

（日本語、最大 400 字程度）

当団体が1994年から現在まで実施した国際会議で連携した国際機関、在留外国人、企業、行政、大学、支援NPO、南アジア・東南アジア文部省(ネパール、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピン、バングラデシュ、マレーシア、インドネシア、インド等各国ユネスコ国内委員会)と関係NGO団体及び経験国関係者（ドイツ：リューネブルグ大学）等との協働（プラットフォーム）作業により、岡山における次の両国の課題を研究し、具体的な提案を行う。

1. 外国人材が母国政府、日本政府、両国コーディネータ、岡山企業等を通じて入国する際の課題把握と改善策
2. 外国人材受入れにより発生する次の課題と対策
 - (1) 習慣、文化、宗教の異質等により社会環境・居住環境・職場環境等の共生状態の把握と改善策
 - (2) 孤立したコミュニティの発生等日本社会に馴染みにくい在留外国人の問題発生予測と対策、予防
3. 岡山の企業が海外で成功した事例とその要素の抽出、将来への反映策

（英語、最大 200 語程度）

COINN will conduct researches and make concrete proposals as below in cooperation with international organizations, foreign residents in Japan, corporations, local governments, universities, support organizations (NPOs), Ministries of Education in the South and Southeast Asian countries (Nepal, Vietnam, the Philippines, Indonesia, etc.) and National Commissions for UNESCO collaborated with us since 1994 through international conferences, also jointly working by way of laying a platform with related NGOs, experienced institutions such as Lüneburg University in Germany, etc.

1. Researches on grasping and solving problems of foreign residents who are entering Japan through governments of his/her countries, Japanese government, coordinators and companies involved in Okayama.
2. Researches on (1) and (2) as below that could occur in the processes of receiving foreigners
 - (1) Grasping the state of living with local residents in Okayama, problems due to differences of customs, cultures and religions and possible ways of solving them.
 - (2) Predicting occurring problems of isolation, etc. of foreign communities that find themselves difficult to fit in the Japanese society and finding countermeasures.
3. Researches on the cases of companies from Okayama that successfully settled in foreign countries, finding out the elements of the success with future prospects and suggestions to emulate.

2. 参加者

氏名	年齢	所属、役職等	プロジェクトでの役割
青山 勲	70歳代	(特)岡山県国際団体協議会理事長	代表者
橋本 徹洪	70歳代	(特)岡山県国際団体協議会 事務局長(岡山県ユネスコ連絡協議会 事務局長)元岡山県職員	連絡責任者(プロジェクトコーディネーター)会計&国際会議実施責任者
後谷 和美	50歳代	(特)岡山県国際団体協議会 スタッフ(パートナーシップ・コーディネーター)(所属:岡山大学 国際部)	会計責任者補佐兼海外調査員補助
田中 共子	50歳代	岡山大学大学院社会文化科学研究科心理学研究室教授	ソーシャル・スキルの育成・評価
成廣 孝	50歳代	岡山大学法学部社会文化科学研究科教授、岡山県国際課事業「岡山多文化共生政策研究会」座長	県民と外国人材との共生生活策の策定
奥西 有理	40歳代	岡山理科大学教育学部中等教育学科英語教育コース准教授	異文化理解教育指導及び海外調査
内藤 正典	60歳代	同志社大学グローバルスタディーズ研究科教授(予定)	住民と外国人労働者の対応の仕方
伊藤 壺希子	30歳代	福岡大学人文学部講師。博士(教育学)(予定)	異文化教育海外(ドイツ等)事例紹介と指導
笹井 宏益	60歳代	元文部科学省国立教育政策研究所・生涯教育研究部総括研究官、玉川大学、学術研究所教授	SDGsに基づく開発途上国会議コーディネーター
片山 浩子	80歳代	岡山外語学院 理事長(留学生の日本語教育・進学就職指導)	海外留学生の教育事情情報提供
大塚 善一	50歳代	元ユネスコ・ダッカ事務所副所長、前岡山大学グローバル・パートナーズ教授、現ACCU部長	SDGsに基づく開発途上国会議コーディネーター
大倉 恵美	50歳代	(特)岡山県国際団体協議会 岡山県多文化共生サポーター(岡山県国際課公認)	一般市民、在留外国人への多文化共生指導
内田 光後	60歳代	元中央公民館館長補佐、前教育委員会指導課課長補佐、現公民館学会理事	地域住民と在留外国人との提携指導
永林 勉	50歳代	農業栽培専業、アジア農村ネットワーク岡山代表(カンボジア、バングラデシュでの農業指導を10年以上継続)	各国の青年の就業状態の実態把握
Ayşe Ilgin Sozen	20歳代	岡山大学大学院社会文化科学研究科心理学研究室同科博士課程学生	地域住民と在留外国人へのアンケート調査等
橋本 一郎	60歳代	厚生労働省許可民間有料職業紹介事業実施者(行政書士)	外国人材受入実態調査
久世 英一	60歳代	岡山県連合町内会会長(予定)	地域(町内会)住民と外国人材の接触状況
杉浦 勉	60歳代	元伊藤忠商事株式会社部長代理(世界90カ国以上の労働実態確認)	企業の海外進出と国内受入の実態報告
吉山 誠	60歳代	三菱自工(株)からアメリカ、オーストラリアの関連企業に数年間赴任、前岡山国際経済交流協会事務局長	企業の海外進出と国内受入の実態報告
鈴木 佑司	70歳代	法政大学名誉教授・元世界113国協会連盟会長	平和を希求した住民の公正さの対応指導
Gerd Ichelsen	60歳代	ドイツ・リューネブルグ大学教授(SDGs、ESD教育の専門)	地域にとっての必要な海外人材の受入
Dhruba Raj Regmi	60歳代	元ネパール・ユネスコ・国内委員会事務局次長、ネパール文部省(海外協力担当部次長)	ネパール(近辺国)の海外人材派遣状況
Nguyen Thanh Son	50歳代	ベトナム・ユネスコ・国内委員会事務局次長	ベトナム(近辺国)の海外人材派遣状況

3 経歴・実績（主要な参加者の経歴・実績を記載してください。）

(注) ESD（持続可能な開発のための教育）、CLC（コミュニティー・学習・センター：日本の公民館に相当）

	氏名	所属大学等・職名	役割分担	実績
1	橋本 徹決	COINN 事務局長、岡山県ユネスコ連絡協議会事務局長、岡山ESD推進協議会委員	事業事務局の運営（プログラム・コーディネーター）報告書作成（編集）、報告会開催・開発途上国政府・地元行政調整	過去 24 回の延べ 35 カ国国際会議の事務局として関わり報告書を作成した。2002 年 10 月ユネスコ・パリ本部 ESD 部で 2 週間 ESD 実施計画に関する実務に携わった。2010 年以降南アジア・東南アジア（10 カ国）の SDGs、CLC の青年活動支援を行った。
2	田中 共子	岡山大学大学院社会文化科学研究科心理学講座教授	ソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキルの育成・評価	文化の多様性の発現と、異文化接触場面での心理的動態を研究。異文化適応および異文化間の対人関係形成の研究、異文化滞在者の心理教育と健康教育に関する調査とゲーミングシミュレーションを用いた心理教育的な医療安全教育の研究など。
3	奥西 有理	岡山理科大学教育学部中等教育コース准教授	外国人労働者と岡山地域住民との関係に関する教育教材開発及び先進国事例の海外調査	異文化間教育学・異文化間心理学・英語コミュニケーション学・異文化理解・異文化適応・異文化変容、教員インタビュー、留学や地域社会での国際交流活動などの異文化接触を通して、どのような心理的変容がみられるのかについて研究
4	Ayşe İlgin Sozen	岡山大学大学院社会文化科学研究科心理学研究室博士課程留学生	地域住民と在留外国人へのアンケート調査及びインタビューとその分析	トルコ・アンカラ大学でフリーガン（狂信）社会心理学論文作成。岡山大学博士卒論として、日本人とトルコ人のソーシャル・スキルの対応と、アカデミック・カルチャーショックの違い、文化的対応の違い、留学生の社会的な異文化適応状況の研究を行って完成した。
5	内藤正典	同志社大学グローバルスタディーズ研究科教授	異文化理解・多文化共生のあり方の指導	専門は多文化共生論、現代イスラーム地域研究、西洋とイスラームの関連文明論。著書に「トルコ中東情勢の鍵を握る国」「限界の現代史 イスラームが破壊する欺瞞の世界秩序」「イスラーム戦争 中東崩壊と欧米の敗北」「イスラームの怒り」など研究
6	伊藤亜希子	福岡大学人文学部講師。博士（教育学）	海外（ドイツ等）における「多文化社会における排除と共生等」の事例指導と合同調査	「ドイツにおける参加を通じた移民の統合」「統合ヨーロッパの市民性教育」「保育者と移民家庭との異文化間の関係づくりを目指す試み」など研究
7	大倉 恵美	（特）岡山県国際団体協議会多文化共生サポーター（岡山県国際課公認） KIA認定多文化共生マネージャー	多文化共生に関する理解促進と支援体制の構築	前岡山市立公民館館長として地域の外国人との交流事業、防災事業、子供の親子の生活支援、外国文化紹介を行った 岡山県国際課の依頼により「多文化共生サポーター講座」開催

4 プロジェクト・チームについて（チームを構成するに至った経緯や、チームとして取り組むことで期待される作用・効果などについてご記入ください。）

1. チーム構成経緯

(1)外国人増加のニュースの配信による驚き

2019年4月1日に入管法改正が行われ外国人材の流入増のニュースが大きく報道された。

(2)ベトナム人雇用者（企業人）からの要請

岡山で急激にベトナム人（約8,000人）が居住するようになり、その若者が精神的に発散する所（居場所）がないので当団体の関係者の岡山駅近辺商店街にある3階建てビル（12坪）を借用（ベトナム人用喫茶店、カラオケ場所）させてほしい要望があった。

(3)特に最近、在留外国人の増加傾向があり、ベトナム、ネパール、インドネシア、フィリピン出身者が目に見えて増加している。かれらの住居環境の噂、仕事の種類、休暇状況を見ると必ずしも良い状況とは思われない。勿論、企業経営者が、海外人材（建設業等）を日本人並みに対応している企業もある。従来、日本の若者や高齢者が従事していた業種（住宅建設業、コンビニ店員、コンビニ食材の加工業種、牡蠣殻の除去作業等）にベトナム人などが配置されている。今では、彼等がいないと日本の生活が成り立たなくなっている。

(4)上記のように日本人の労働場所が外国人による労働場所に徐々に大きく変わり、労働内容も多分野（介護、建設、工場生産等）に渡り、多くの外国人材が入国する状況にある。

(5)岡山においても外国人の存在は以前と比較できないような状況になりつつある。当団体の事業推進趣旨においては国内・国外の課題を解決することをミッションとしているため、何らかの対応を図る必要があると考え、岡山市人権推進課に「国際的な人々の生活定住の為の困難と問題の明確化（岡山県における外国人の異文化適応訓練プログラムの実施）」というテーマで本年6月に助成申請を行った。①在留外国人15カ国の代表に実行委員の就任を依頼した。②在留外国人28,000人を対象に生活状況アンケート調査や各国代表者のインタビューを行い、外国人材のソーシャル・スキルの向上策の調査研究を行っている。

（注：NO12の自由記載欄にアンケートのURL、QRコード（7ヶ国語）記載参照）

2. チームとして取り組む上で期待される作用・効果

(1)岡山住民において共生に向けた意識の変革が生まれる。

- ① 在留外国人の岡山での生活実態を知り、今後、一般住民がどのような影響を受けどのように対応すべきかを知るようになる。
- ② 在留外国人の習慣、風習、価値観、文化、宗教が、我々日本人にどのような影響をもたらすのか、それにどのように対応するのがベターなのかを生活の中で考慮するようになる。

(2)在留する外国人材の労働意識や生活意識に、周囲の市民と共有する気持ちが芽生える。

- ① 地域住民と外国人との繋がりが生まれ地域としての住民交流が根付く。
- ② 行政・企業サイドの努力も得て外国人コミュニティの孤立を防ぎ、日本人従業員と共に生活環境と職業環境スタイルを共有していけるようになる。

(3)地域との連携が推進する

地域の町内会や公民館で外国人の受け入れ体制を整え、相互のコミュニケーションが取れるようになれば、在留外国人の生活上の問題点をよりスムーズに解決できる。外国人材の生活空間のある場所で、地域コミュニティと共存することが可能となる。

5 課題の現状分析（課題に取り組むべき理由、本来あるべき姿）

1. 外国人材が母国政府、日本政府、両国コーディネータ、岡山企業等を通じて入国する際の課題

(1) 技能実習制度と今後の外国人労働者受入政策の課題

- ① 外国人労働希望者が母国側の送り出し機関に、大きな負担となる額の費用を支払っている。多額の学資を稼ぐ必要が生じ、規定以上に日本で資格外活動に従事することになり、学業が不成立に至る状況がある。（対策：日本受入側が日本語教育確認と旅費を負担）
- ② 研修、実習だから給料は低くて当然だ、という発想がある。（対策：最低賃金の確認）
- ③ 2017年現在、賃金の未払い等による、7000人以上の技能実習生の逃亡問題がある（対策：外国人技能実習機構の機能強化又は改良）
- ④ 改正後の入管法では、企業の希望によっては現実的に永住可能の状態になるが、学校、医療、市役所の公的サービスの利用は、言葉の問題もあって容易でない。だが通訳や翻訳の対応が大きくなれば、行政コストに大きな影響がでるため、対応は遅れがちである。

(2) 外国人材の相互交流を図る課題（相互の中央政府、地方政府）

- ① 外国人労働者として受入れ、2年や3年のローテーションで帰国させるという国は、世界的には特異といえる。（対策：母国政府、受入政府、相互コーディネーター、企業連合等との人材交流の覚書作成）

2. 外国人材受入れにより発生する次の課題と対策

市民・県民が将来に渡ってどのような主義（共生主義・調和主義・統合主義・同化主義・多文化主義）で対応したいのかが現状では不明。共通の価値観を共有できるかどうかが問題。

(1) 習慣、文化、宗教の異質等による社会環境/居住環境/職場環境等の共生状態の把握と改善策

① 異質の理解

日本へ来られる外国人材は単なる労働力でなく、人間が来る。夢もあれば、怒りも、悲しみも、欲もある人たちで、我々とは違った価値観もあれば似ている所もある。（対策：自分たちとは異なる人間であることを認めようとして、人として接する。）

② 宗教上の理解

日常的に、彼らが何を食べ、何を飲み、何が話題か。何に喜び、何に悲しみ、何に激しく怒っているかを知る。（対策：普段から彼らとのコミュニケーションを図る。）

③ 人として行ってはいけないことの理解

人間として尊厳を傷つけること。人種による差別、国籍や民族による差別はしない。（対策：相手のことで不明や疑問があれば、決めつけずに訊いてみる。）

(2) 孤立したコミュニティの発生等日本社会に馴染みにくい在留外国人の発生予測と対策、予防。

① 価値観の異なりを理解する（同化主義と多文化主義）

異なる背景をもつ人と一緒に暮らすとき、同化主義の強い国（日本、ドイツ）と多文化主義の強い国（アメリカ、イギリス）がある。共に生きる上での唯一の正解はないことを知る。

② 外国人と仲良くなる方策として、6つの「しない」を理解する

批判には両方の意見を聞き、偏らない。習慣的な飲食の詮索をしない。単純な評価をしない。差別意識を持たない。聞きかじりの態度をしない。比較で人の序列付けをしない。

3. 岡山の企業が海外で成功した事例とその要素の抽出、将来への反映。

① 1977年福田ドクトリンによる現地進出の結果が、外国人材受入の糧となった。

- ・ 関係国と心と心の触れ合う信頼関係を構築する。
- ・ 対等な立場に立って対話を進めることで、関係国との平和と繁栄に寄与する。

6 実施内容・方法（プロジェクト実施期間で、設定した課題に対して、どのような内容と方法で取り組むのか、課題との関連や、その取り組みが現状の改善やそのための仕組み構築にどう作用するのか、等を具体的に記述してください。）

(1)プロジェクトの主旨

現状の日本は、少子化で若い労働人口が不十分となり、活力がなく、現実的に「日本人だけの国」であり続けることは不可能の方向に進んでいる。これを解決するために、外国人材を受入れざるを得ないため、可能な限り優秀な人材の受入と外国人材の能力開発を検討し、長期的に継続して就労可能となる生活状況システムを実現したいと考えている。このためそれらにまつわる問題を解決する道筋を見つけることが我々のミッションである。よって具体的に実施する事項は以下のとおりである。

- ①過去の欧州等での解決のための先行事例を検証する。
- ②外国人材送り出し側・受入れ側両者関係者の現実的な状況と問題点を明確にし、解決策を検討する。
- ③入国後の地域での生活上で発生する彼らとの直接的な習慣の違い、コミュニケーションの方法等により発生する摩擦の溝をどのように埋めるかを検討する。
- ④在留外国人と日本人が持続可能な社会生活の向上推進を図る方法を検討する。

(2)プロジェクトの実施項目

①先行国の事例調査（ドイツ、ベルギー）

受入れ側の文化の継続をどのようにしたのか。自分たちの重視する価値に従って生きる自由をどこまで保障したのか。自分たちの同じ文化、同じ宗教をもつ人が集まって暮らす方がいいのかどうか。支援団体はどのようなものがあるのか。下記⑤の会議に出席依頼

② 外国人材の受入れ送り出し状況の各国の状況実態調査（送り出し側、日本側の政府関係者、人材紹介事業者、教育関係者、NPO支援者等）

調査国：ネパール、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピン、バングラデシュ、マレーシア、インドネシア、インド

③国内における在留外国人の生活状況調査と自助グループ形成

地域コミュニティでのアンケート調査（QRコードやURLコード）やインタビュー調査・特定コミュニティ調査及びソーシャル・スキル向上を図る。

④岡山県民の意向調査

岡山県町内会連合会の支援による住民意識アンケート調査（QRコードやURLコード）やインタビュー調査

⑤各国政府参加による協議の場の設定（国際会議：覚書署名）

人材派遣・受入れを行っている各国主要担当政務官国際会議(問題の提起とプラットフォーム結成)

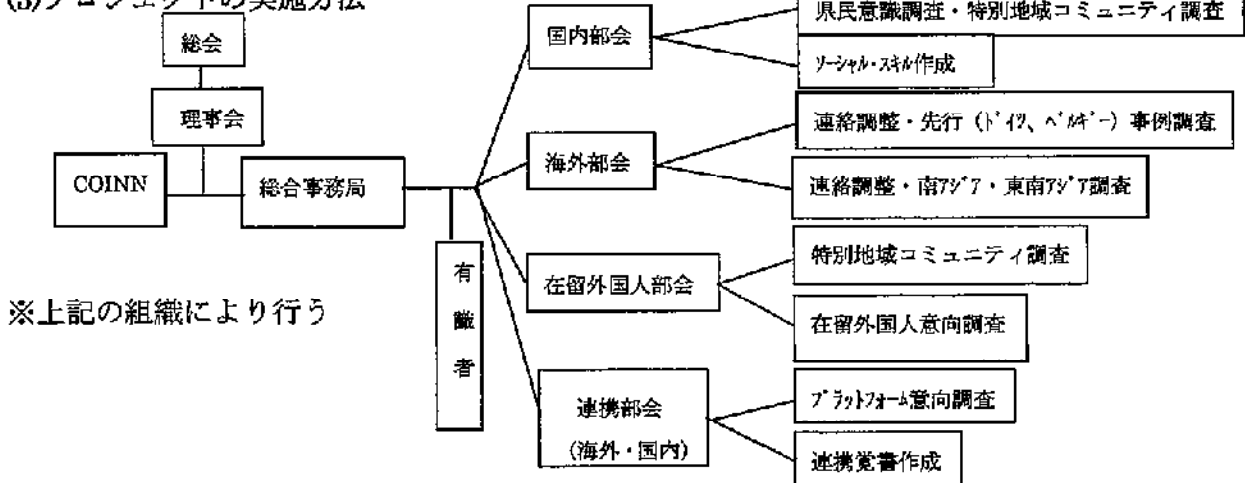
⑥岡山県内の関係者・県民の外国人材受入れ意識の向上を図るためのシンポジウム開催

共生と共創のための意見発表とプラットフォームの結成

⑦関係報告書の作成

先行国外国人材受入報告書、海外調査報告書、地域コミュニティ在留外国人現況報告書、岡山県民意識調査結果報告書、在住外国人とのコミュニケーション向上の為のソーシャル・スキル集発行

(3)プロジェクトの実施方法



※上記の組織により行う

有識者（海外・国内：大学、企業、人材紹介、教育者、支援NPO）

7 期待できる短期・中長期の成果と波及効果（プロジェクトの成果をどのように関係者・機関・一般社会に発信していくかも含めてご記入ください。）

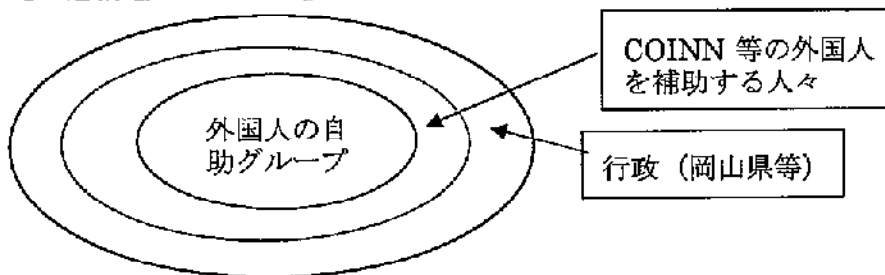
【短期の成果（主にプロジェクト中～終了直後）】

- ①産・官・学・NPO・在留外国人・市民の「統合プラットフォーム」が本格的に稼働する。
- ②外国人と日本人とが共生するための「岡山共生知恵袋」が行政のホームページに掲載される。
- ④外国人に市民としての参加意識を持つきっかけの場が提供され、市民の“ひとり”に育っていく。
- ⑤「外国人市民の自助グループ」の発想から、外国人市民の先輩が後輩を助ける互助が進む。
- ⑥市民として共に暮らすための交流と共存の「ソーシャル・スキル」（社会的技能）を、ロールプレイを通じて学び、日本社会の様々な習慣や生活の知恵を身につける。
- ⑦ソーシャル・スキルは、対人関係を築き、社会的場をこなすための考え方と行動の要領なので、その学習と実践を通じて、外国人が感じる困難を解決に向かわせていくことができる。
- ⑧「産官学+NGO」による市民目線を特色とし、ソーシャル・スキルを身につけた外国人と日本人がコミュニケーションを進め、共に市民として暮らす「岡山モデル」の構造を誕生させる。

【中長期の成果】

- ①「外国人の自助グループ」一層目、「外国人が日本社会に溶け込む手助けをする」二層目、そして「行政」という三層構造の形成が成立する。（COINN：NPO 法人岡山県国際団体協議会）

【三層構造のビジョン】



- ②. 岡山県内に公民館等を拠点としたNPO、住民、在留外国人、行政等による「多文化共創センター」が設立され共生社会の道が開かれる。

8. 助成期間終了後の計画・展望

【中長期の成果】の実現に向けて、プロジェクト終了後、どのような取り組みが必要ですか。そのために必要な資源・財源、組織形態、実施体制などについてご記入ください。

1. 連携組織の構築

外国人材を多く招き入れるために、①各国毎に常設の母国側送り出し組織として a) 各国政府人材派遣機関、b) 地元教育機関—日本語能力判定試験証明（3者機関で構成）—、c) コーディネータ機関の a, b, c の三者で構成し、②岡山側の受入組織として、ア) 地元自治体市民協働組織、イ) NPO多文化共創センター（公的認可を受けた組織）、ウ) 公的認可を受けた企業人材コーディネータ機関のア、イ、ウの三者を設け、①、②の両者とのネットワーク組織を構築する（原則、日本語は送り出し側で徹底的に行う）。

2. 外国人材送り出し側母国のメリットの構築

岡山側だけのメリットでなく、送り出し側のメリットも検討する。その方法として、外国人材を岡山の公的機関に招いて3年間の地域開発職業訓練、地域づくりのノウハウ等訓練を行い、その後、帰国させ送り出し側の CLC 地域の人材づくり、組織づくり、地域づくりの支援に当たらせる組織を構築する。これは送り出し政府側と受入側政府・自治体等の覚書が必要。（ODA 資金による真の岡山県内自治体等の国際貢献・協力となると思われる。）（CLC：地域学習センター：日本の公民館に相当する。数千箇所以上南アジア、東南アジアの地方にユネスコが設置している。）

9 スケジュール (1年目)

月別	備考	スケジュール
2020年 5月	助成期間開始 助成金送金予定	○第一回実行委員会準備会 (各部会結成) 総合事務局(各部会開催)国内部会・海外部会・在留外国人部会・連携部会の立上と業務内容・スケジュールの概要を各部会協議
6月		◇第一回各部会開催 ①国内部会開催:国内調査内容(アンケート、インタビュー)作成 ②海外部会開催:海外調査内容作成 ③在留外国人部会開催:在留外国人・地域コミュニティ調査内容作成 ④連携部会開催:関係機関調整内容作成
7月		◇第二回各部会開催 6月と同じ4部会 ○第二回実行委員会準備会(具体的調査内容検討)担当:総合事務局 各部会合同会議:業務内容&調査内容の調整協議
8月		■第一回実行委員会 3ヵ年計画発表(4部会発表、タイムスケジュール、役割分担発表、在留外国人委員選任等の決議、調査内容決議) ●連絡調整 ①海外調査先連絡調整(バングラデシュ、ネパール、ラオス、ベトナム、フィリピン) ②国内調査先連絡調整(岡山県市長会、岡山県町内会連合会) ③在留外国人所在調査調整(地域コミュニティ調査) ④連携先連絡調整(国内・海外の産・官・学・NPO・在留外国人・地域コミュニティ等プラットフォーム構築)
9月		◎国内部会調査(インターネット及び直接面接) 第一回岡山県内在留外国人の地域生活実態調査(アンケート調査) 第一回岡山県内在留外国人の地域生活実態調査(インタビュー調査)
10月	中間報告提出	■中間報告書作成 ◎国内部会調査(継続:インターネット調査及び直接面接) 第二回岡山県内在留外国人の地域生活実態調査(アンケート調査) 第二回岡山県内在留外国人の地域生活実態調査(インタビュー調査)
11月	助成金送金予定	◎国内部会調査(継続:インターネット調査及び直接面接) 第三回岡山県内在留外国人の地域生活実態調査(アンケート調査) 第三回岡山県内在留外国人の地域生活実態調査(インタビュー調査) □海外調査派遣:ドイツ、ベルギー
12月		◎国内部会&在留外国人部会調査: 「特定町内会(コミュニティ)実態調査」10市町村(予定) □海外調査派遣:バングラデシュ、ネパール
2021年 1月		□海外調査派遣:ラオス、ベトナム □海外調査派遣:フィリピン
2月		◇国内部会&在留外国人部会共催:「特定町内会(コミュニティ)の問題点洗い出し」実施 ◇各部会開催:初年度調査結果等課題整理・報告書作成 ◇連携部会調査:初年度「国内・海外の産・官・学・NPO・在留外国人・地域コミュニティ等プラットフォーム構築の課題調査」
3月		■第二回実行委員会 国内部会,海外部会,在留外国人部会,連携部会の結果報告
4月	中間報告提出	■中間報告書作成・提出

9 スケジュール (2年目)

月別	備考	スケジュール
2021年 5月	2年目 助成金送金予定	<p>◇第三回各部会開催</p> <p>①国内部会開催：国内調査結果報告と課題対策作成</p> <p>②海外部会開催：バングラデシュ、ネパール、ラオス、ドイツ、ベルギー調査結果課題作成</p> <p>③在留外国人部会開催：在留外国人居住地域のコミュニティ調査結果報告と課題対策作成（国内部会と合同）</p> <p>④連携部会開催：関係機関調整結果報告と課題対策作成</p>
6月		<p>◇国内部会&在留外国人部会共催： ・「特定町内会（コミュニティ）の改善案作成提案・実施」</p> <p>◇連携部会開催： ・「国内・海外の産・官・学・NPO・在留外国人・地域コミュニティ等プラットフォーム構築」提案作成</p> <p>■第三回実行委員会 ・国内部会、海外部会、在留外国人部会、連携部会からの1年度結果報告と2年目の活動決定</p>
7月		<p>●海外調査先連絡調整（インドネシア、インド）</p> <p>◇在留外国人部会・国内部会：地域コミュニティ改善案提案&提示（特定地域に対して）</p>
8月		<p>●海外調査先連絡調整（マレーシア、カンボジア）</p> <p>◎国内部会調査（継続：補足調査） 補足調査：岡山県内在留外国人の地域生活実態調査（インタビュー調査）</p>
9月		◎連携部会調査：2年度目「国内・海外の産・官・学・NPO・在留外国人・地域コミュニティ等プラットフォーム構築の課題再調査」
10月	中間報告提出	<p>□海外調査派遣：インドネシア</p> <p>□海外調査派遣：インド</p> <p>■中間報告書提出</p>
11月	助成金送金予定	<p>□海外調査派遣：マレーシア</p> <p>□海外調査派遣：カンボジア</p>
12月		<p>◇海外部会開催： ・調査先国への追加質問状の送付案作成 ・2年度調査結果課題整理・報告書作成</p>
2022年 1月		<p>◇連携部会開催 ・第二回目「国内・海外の産・官・学・NPO・在留外国人・地域コミュニティ等プラットフォーム構築の課題調査」</p> <p>◇連携部会開催 ・各関係者（母国政府、日本政府、両国コーディネータ、岡山企業等）とのプラットフォーム連携覚書第一次素案の作成 ・相互覚書第一次案各国送付（バングラデシュ、ネパール、ラオス、インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ドイツ、ベルギー）</p>
2月		<p>◇連携部会開催 ・第一次案に対する海外からの関係機関連絡・内容確認</p> <p>◇連携部会開催 ・各関係者（母国政府、日本政府、両国コーディネータ、岡山企業等）とのプラットフォーム連携覚書第二次案の作成 ・相互覚書第二次案各国送付</p>
3月		◇連携部会開催 ・各関係者（母国政府、日本政府、両国コーディネータ、岡山企業等）とのプラットフォーム連携覚書最終案の作成
4月	2年PJT助成期間 終了/中間報告提出	<p>◇第四回各部会開催：当概年結果報告準備作業 在留外国人部会：「外国人自助グループ」ネットワーク構想作成</p> <p>■第四回実行委員会 国内部会、海外部会、在留外国人部会、連携組織部会の結果報告</p> <p>■中間報告書提出</p>

9 スケジュール（3年目：2年プロジェクトでご応募の場合、記載は不要です。）

月別	備考	スケジュール
2022年 5月	3年目 助成金送金予定	◇第五回各部会開催 ①国内調査結果による改善提案作成（国内部会） ②海外調査結果による改善提案作成（海外部会） ③在留外国人・地域コミュニティ調査結による改善提案成果確認（在留外国人部会） ④連携組織調整結果報告によるプラットフォーム連携構築最終案作成（連携部会）
6月		◆総合事務局実施（各部会代表者参加） ①国際会議実施要綱案・シンポジウム案の作成と協議（2回実施） ②各国政府の国際会議招聘予定者調整（1年目2年目訪問時調整者） ③第五回実行委員会議案提出案作成（ソーシャル・スキル学習の試案作成）
7月		■第五回実行委員会開催（4部会参加） 議案：①2年間の国内・国外調査の結果概要発表 ②国際会議実施要綱案発表、シンポジウム案発表 ③プラットフォームの構成と要綱（実施方法）発表 ④「外国人自助グループ」ネットワーク構想発表 ⑤ソーシャル・スキル学習の試案作成
8月		◆総合事務局実施（各部会代表者参加） ・国際会議各国招聘者案内文通知作業（政府、関係機関） ・国際会議日本側招聘者案内通知作業（政府、関係機関）
9月		◆総合事務局実施（各部会代表者参加） 国際会議開催準備資料作成と協議（2回）
10月	中間報告提出	◆総合事務局、各部会等主催 【国際会議実施】 ①南アジア・東南アジア外国人材送出国政府関係者招聘国際会議（国内・海外の関係国9カ国・関係機関参加） ②各関係者（母国政府、日本政府、両国コーディネータ、岡山企業等）とのプラットフォーム連携覚書締結式開催 ■中間報告書提出
11月	助成金送金予定	◆総合事務局（各部会代表者参加） ①国際会議結果報告まとめ ②シンポジウム（案）再提示・再協議 ・専門家と行政・住民・企業・在留外国人との対話（パネラー：政府、大学、行政、企業、連合町内会、日本語教育者等）
12月		◆総合事務局、各部会実施（各部会代表者参加） ■第六回実行委員会開催（4部会参加） ①1年目、2年目、3年目の結果発表、総まとめ提案 ②シンポジウム案協議
2023年 1月		◆総合事務局、各部会実施（各部会代表者参加） 【シンポジウム（案）開催】 総合テーマ：“外国人材を継続的に受け入れるには？”
2月		◇第六回各部会開催：1年目、2年目、3年目まとめ・報告 ◆総合事務局、各部会実施（4部会） 国際会議まとめ、シンポジウムまとめ
3月		◆総合事務局、各部会実施（各部会代表者参加） 最終提案新聞発表：外国人材導入のあり方（岡山宣言） 在留外国人と地域住民との交わり方の提言（岡山宣言） （参考：ソーシャルスキル学習のハンドブック作成（SNS）、プラットフォーム構築内容）（各部会結果発表）
4月	助成期間終了	■第七回実行委員会開催（総合結果報告） ■最終報告書作成

12 自由欄

1. 当団体 (COINN) が海外との連携が行える理由

(1) 海外とのネットワーク形成事業実績 (1994 年度～現在)

招聘者延べ 296 名 招聘国延べ 170 ヶ国：ヨーロッパ、アメリカ、アジア等 (招聘 32 ヶ国)

(2) 事業テーマ (CLC: Community Learning Center: 公民館に相当)

a) 第 1 段階：1994 年度～2001 年度

ユネスコ・パリ本部職員参加によるユネスコ ESD プロジェクトを生む海外ネットワーク形成事業実施。

b) 第 2 段階：2002 年度～2003 年度

ユネスコ・パリ本部が東南アジアの ESD 推進拠点を岡山へ設置するよう指導。

c) 第 3 段階：2004 年度

DESD (ESD プロジェクトの 10 年) 推進事業をユネスコ・パリ本部と共催。

d) 第 4 段階：2005 年度～2006 年度

ESD 推進方策検討国際会議。

e) 第 5 段階：2007 年度～2010 年度

ESD 推進に「公民館 - CLC」がベストである岡山宣言発表・稼働事業実施。

f) 第 6 段階：2011 年度～2014 年度

「公民館 - CLC」の地域向上策検討国際会議と現地調査 (行政施策・国勢調査の内容、教育システム状況)

g) 第 7 段階：2015 年度～現在年度

「公民館 - CLC」地域の基本産業創出の CLC 職員人材育成資格制度、CLC 地域おこし協力隊派遣や訓練所設置構想創出。

(3) 上記活動のユーチューブ (事業照会 VTR)

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=ZsDXdjgNzxQ&feature=youtu.be>

QR コード



2. 現在進行中の異文化理解事業のアンケート内容 (QRコード)

日本語

韓国語

インドネシア語

ベトナム語

英語

ポルトガル語

スペイン語



別紙-14:2019年度 八塔寺国際交流ヴィラ国別宿泊者数一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
アイルランド共和国													0
アメリカ	1		9	1			9	5		2	5	1	33
アルゼンチン													0
イギリス	4	4	5			4	2	8	2	4	1	4	38
イスラエル													0
イタリア		6			2							1	9
インド													0
インドネシア													0
イラン													0
ウルグアイ													0
ウクライナ													0
エジプト													0
エチオピア													0
エストニア													0
オーストラリア		1	4		2	3	3	5				16	34
オーストリア													0
オランダ		4					6	2					12
カザフスタン													0
カナダ													0
カンボジア													0
ギリシャ													0
ケニア													0
コロンビア													0
ジャマイカ													0
シンガポール									3				3
スイス				7									7
スウェーデン	2		1										3
スコットランド													0
スペイン						2		1					3
スリランカ													0
セルビア													0
タイ													0
大韓民国													0
台湾													0
チェコ													0
中華人民共和国								8					8
チュニジア													0
チリ													0
デンマーク								2					2
ドイツ			1				2	2					5
ドミニカ共和国													0
トルコ													0
ナイジェリア													0
ニュージーランド								2					2
ネパール													0
ノルウェー													0
バングラデシュ													0
フィジー													0
フィリピン										2			2
フィンランド													0
ブラジル													0
フランス	3	10			14	3	1			2		1	34
ブルガリア													0
ベトナム													0
ベネズエラ													0
ベラルーシ													0
ペルー													0
ベルギー	12	2		23	22	24	12						95
ポーランド								2					2
ポリビア													0
ポルトガル													0
ホンコン													0
マルタ共和国													0
マレーシア											1		1
南アフリカ共和国													0
ミャンマー	1												1
メキシコ							3						3
モロッコ													0
ラオス													0
レバノン													0
ロシア													0
コスタリカ													0
ルクセンブルク													0
アイスランド													0
スロベニア	2						44						2
日本	6	25	5		2	17	11	23	12	16	9	5	131
合計	31	52	25	31	42	53	49	60	17	24	18	28	430